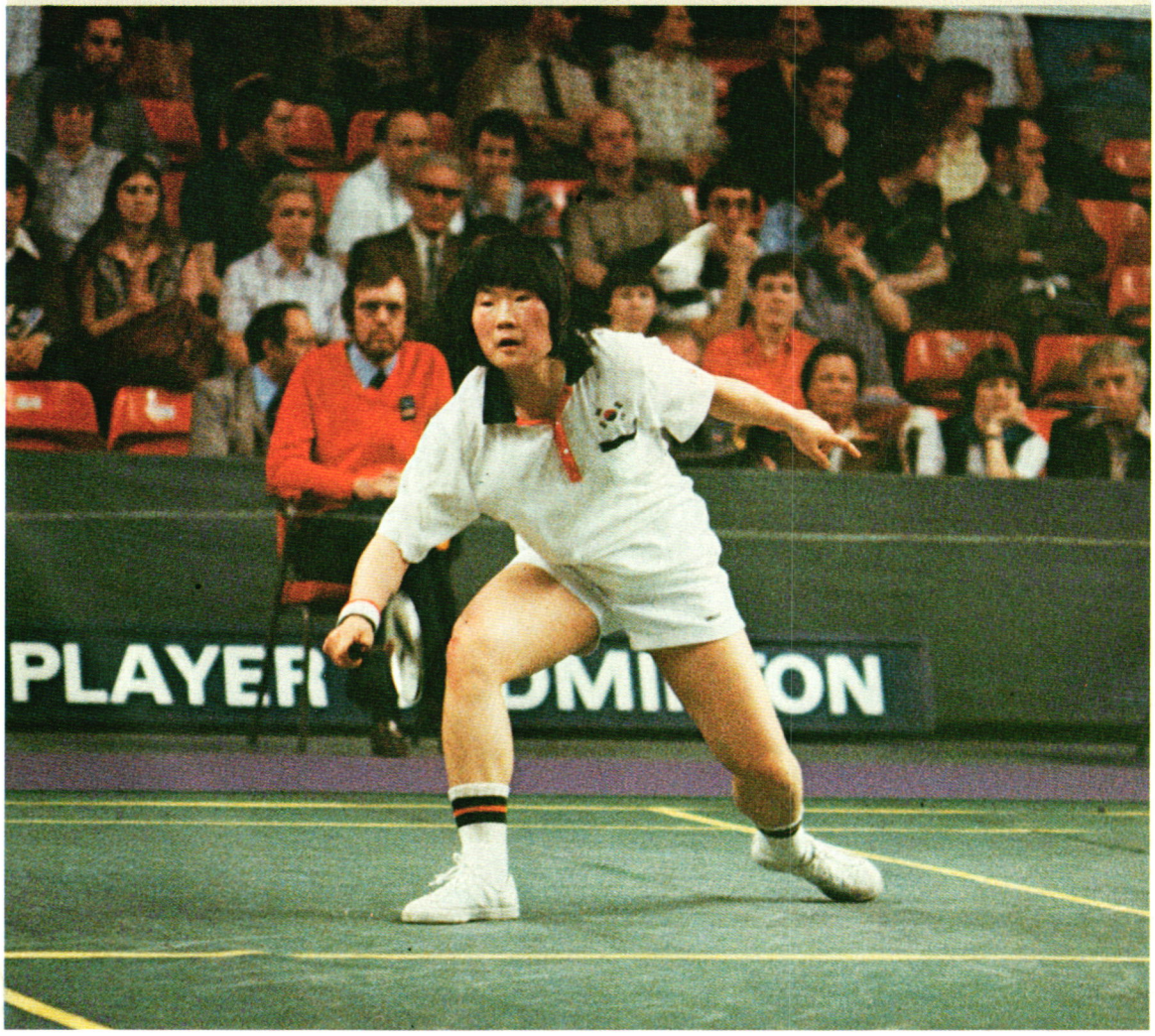
昭和56年 4 月15日発行（毎月 1 回15日発行通巻138号） 昭和55年10月 9 日第三種郵便物認可

バドミントン界

4

The Badminton World No.138 1981



carlton

That's the name of the game



Super

●1ダース¥6,000 ●1個¥500

日本バドミントン協会検定合格球

●IBF(国際バドミントン連盟)公認球

ナイロン・シャトルコック一筋に半世紀。世界のナイロン・シャトルコック市場で90%以上のシェアを持つカールトン社が，その伝統ある技術を駆使し，研究・開発に5年以上の歳月と数億円にのぼる開発費を投入して遂に完成された画期的な新製品，ニューフェザー・シャトルコック〝カールトン・スーパー〟の登場です。従来の水鳥球とほぼ同じ形体と性能を有し，しかも耐久性は3～5倍。世界的に水鳥球の供給が問題とされている今日，期待されるカールトンの自信作です。

Tournament

●1ダース¥3,800

●1個¥320

日本バドミントン協会検定合格球 IBF(国際バドミントン連盟)公認球

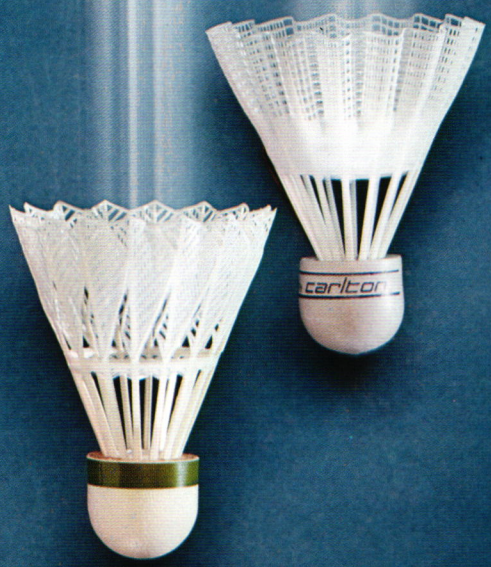
●56年度全国中学生大会使用球

世界一の消費量を誇るナイロン・シャトルのベストセラー。水鳥球の数倍の耐久性をもち，しかも，最も飛び方が似ていると評価されています。この絶大な定評は他の追従を許しません。

METRO 総輸入元 メトロレジャー株式会社

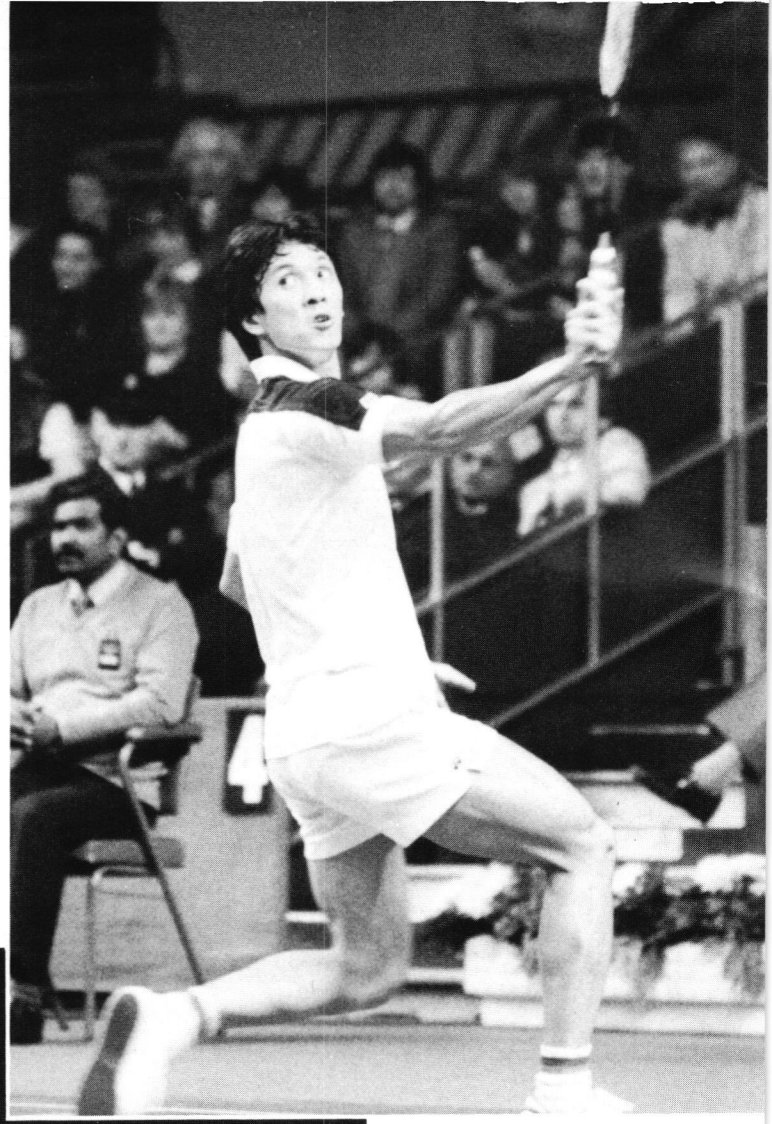
〒101 東京都千代田区外神田5-6-4 TEL.(03)833-3661(代)

完成度99%

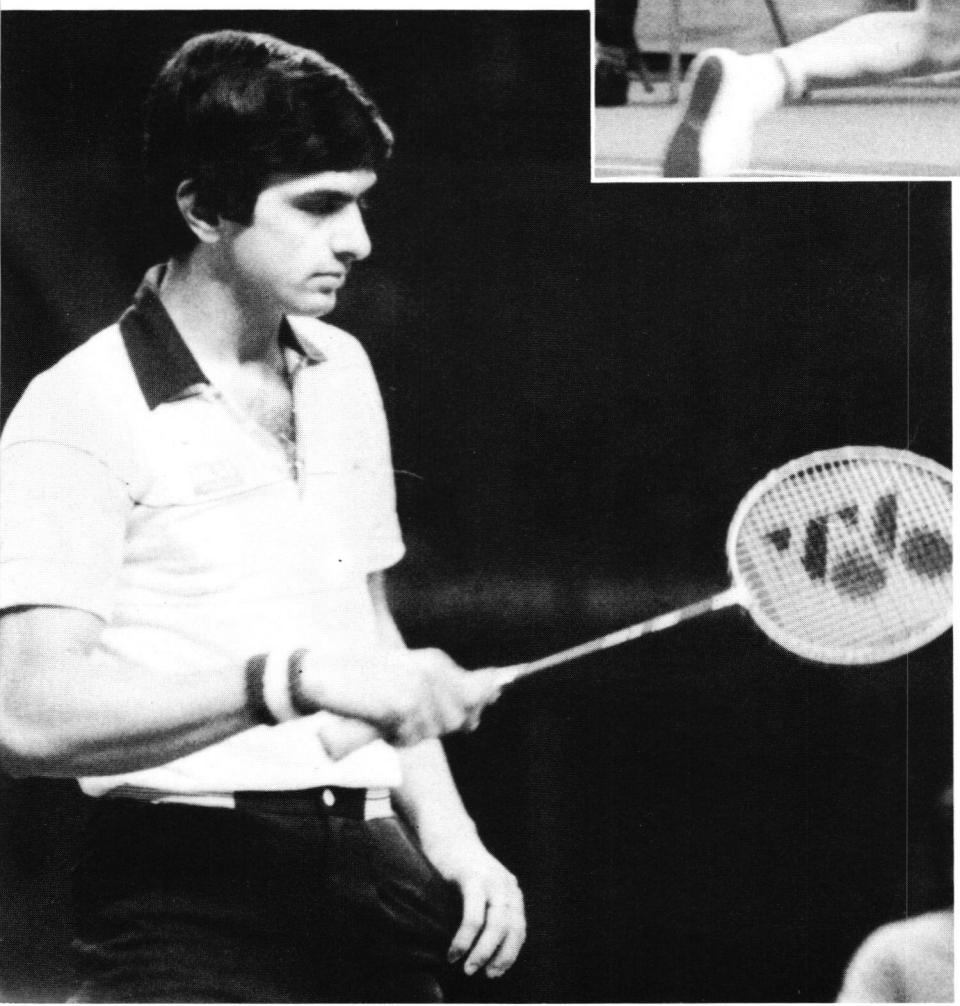


第71回全英オープン

昨年の雪辱果たす リム・スイ・キン



持ち前の強打が爆発したリム・スイ・キン

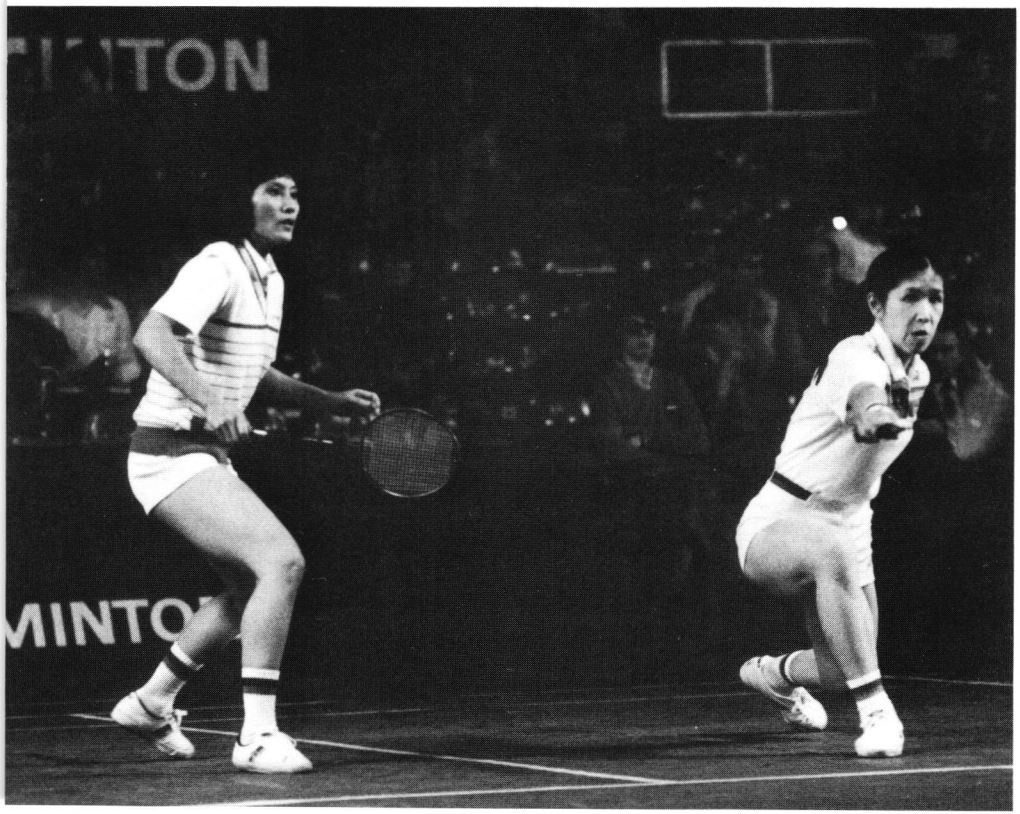


プラカシュも実力を充分に発揮して準優勝



絶好調だったペリー・ウェブスター組（イギリス）

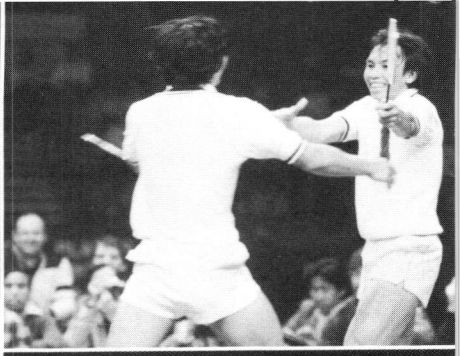
ペリー・ウェブスターに栄冠（女子複）



伏兵ギルクス組に不覚をとった徳田・米倉組



速攻がさえたカルトノ・ハリアント組（インドネシア）





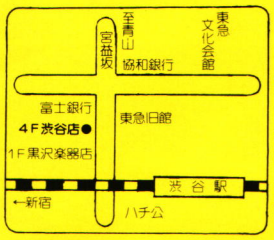


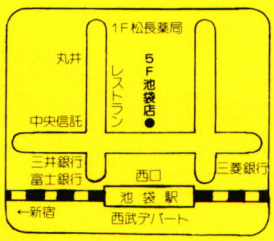
チュンチュン組敗れ

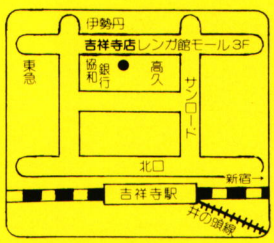
（男子複）カルトノ組が王座に

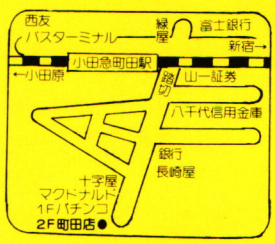
時代は去ったか、チュンチュン・ワジュディ組











2大プレゼント!!

ラケットショップ元町・エア

4/6(月)〜5/31(日) 全店一斉に

☆お値段はもちろんラケットショップ元町特別価格!!

全国郵送もOK

プレゼント①……ラケットには

バドミントンラケットお買上げの方にオリジナルガット（600円）と張り代(400円)をサービス。

プレゼント②ウエア又はシューズに

ウエア、又はシューズには、オリジナル商品のタオルグリップ、レザーグリップ、ガット、シャトルケース、コインケースの中からお好みの商品を1点サービス。

プレゼント③5名以上のグループに

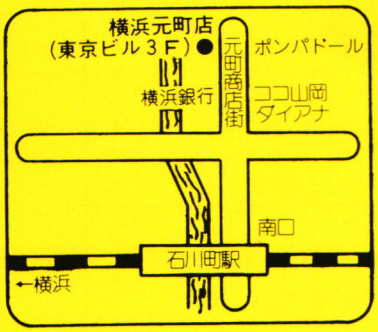
5名以上のグループでバドミントンラケットお買上げの方には、更にレザーグリップと、愛好者必読の書「ガッツ・バドミントン」を差上げます。

プレゼント④空クジなしの元町クジ

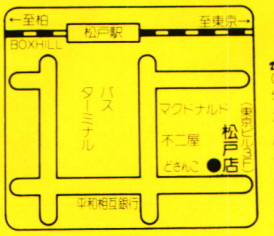
3000円以上お買上げ毎に1回、空クジなしでタンブラーグラス(2ヶ入、1ヶ入)、シャープペンシル、ランドリーケース、スポーツタオル、タオルグリップのオリジナル商品がもれなく当る元町クジを用意しております。

ラケットショップ元町®

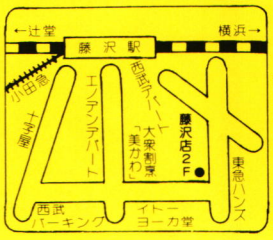
ラケットショップ元町®



●横浜店
☎☎☎テニス・バドミントン
0044-55-6651-9218-0352-0
0445-66-2179-1335-370



●松戸店 バドミントン・フロショップ
☎047-364-6284



●藤沢店 テニス・バドミントン
☎0466-26-2552

春をつげる

5/23(土) A.M.10:00 横浜元町店が

移転オープン

(5/23(土) ～ 5/31(日)
オープニング・セール)



®

バドミントン4

❶ グラフ 第71回全英オープン	㊳ メディカル・アドバイス
❼ デンマーク・スウェーデン・全英オープン特派員報告	㊵ 後藤忠弘 用語ＡＢＣ
㉗ 第１回全国学生選手権申し込み要項	㊷ 第１回全沖縄選抜 編集室から
㉘ 銭谷欽治 チャンピオンをめざせ	㊸ グラフ デンマーク・スウェーデンオープン
㉚ 飯野佳孝 テクニックを盗め	
㉜ 春の高校選抜 比叡山、高岡女子が栄冠	
㉞ 産声あげた新連盟 神奈川県に新社会人連盟スタート	
㊱ 海外トピックス	

◇表紙デザイン・構成，本文カット＝野間デザイン室，長谷部憲和

◇今月の表紙＝第71回全英オープンで初優勝の黄善愛（韓国）選手　撮影＝若園三輪子

密着取材

3月8日↓30日・コペンハーゲン〜マルメ〜ロンドン デンマーク・スウェーデン・全英オープン、全日程特派員報告

MIWAKO WAKAZONO

3月8日（日）

さて、ここは雲の上。

第一回目の機内食を食べ終え、やっと一段落着いたところ。

成田をたってから、なんと3回も機内食でがまんしなければならないという、遠い道のり。日本を午前11時30分に出発して、コペンハーゲンには午後7時30分着。時差をプラスして、約15時間ものあいだ、せまい椅子に身体を90度にしてすごさなければならない。

今日から約一ヶ月、デンマークオープン、スウェーデンオープン、全英選手権に参加するため、ナショナルチームのメンバーはヨーロッパを巡る。

参加選手は15名。

小飼国長、池田コーチを先頭に、男子は銭谷、飯野、土田、長谷川、辻。女子は徳田、米倉、近藤、高田、北田、冨田、高峯、陣内、東海林、大塚。日本期待の選手ばかり。

機内での選手たちの元気のいいこと。

男子は、トランプ、囲碁からカラオケの練習まで。

女子もまた電卓ゲームに精を出し、申し合わせたようにみんなウォークマンのヘッドホーンを耳にあてている。コートの中のあのきびしい表情からはとても想像できないような、なごやかなムード。

モスクワで一度、機を降り1時間のお休み。

社会主義国家とあって、なんとなく堅いムード。まわりの景色がアカーく（？）見えてくる。

ロビーにいる人々は、縦も横も日本人の倍ぐらいある大男に大女。みんなそろって毛皮のコートと帽子に身をつつんでいる。

さてコペンハーゲンまであと3時間ちょっと。日本はもっとっくに日没のはずなのに、機内から見る空はまだ明るい。今日は一日を32時間も使って、ちょっと得をした気分だが、選手にとっては時差による体調の回復が大変なことだろう。

空港からバスで30分ぐらいでコペンハーゲンでの宿、アドミラルホテルに到着。お城のような造り。入口には大炮が2台かまえている。港街コペンハーゲンの名にふさわしく、窓からは出入りする船が見え、汽笛の音が響く。

初日なので全員で食事に出かけた。「バンブーン」という中華料理店。選手たちのみごとな食欲。これでなくちゃ!!　満腹と疲れで、もうまぶたが半分くっついている。今日はさぞかしよく眠れることだろう。

ベテランはマイペース ものおじしない陣内。

3月9日（月）

身体は眠たいのに、目だけはいつものようにさめる。

朝食はバイキング形式。パンが何種類もある。でもあとはハムとチーズがちょっとづつ。野菜がまったくない。寒い国だから野菜は高いのかな？

寒い国と言えば、今年は全世界的に異状気象なのか、ここコペンハーゲンは例年に比べ、ずいぶん暖かい冬だそうだ。

日本はあんなに大雪に悩まされたというのに、今日も信じられないほどの良い天気。北欧の人々は青空の見えた日は、喜びの相さつをかわすほど、珍らしいのだそうだ。

ホテルのロビーでインドネシアの選手たちに会う。

ハルトノ、チャンドラ、クリスチャン、ベウワティ、イメルダなどの顔が見える。クリスチャンと片語の英語で挨拶をする。彼らも昨日こちらに着いたそうだ。

リム・スイ・キンは全英にしか参加しないらしい。

12時より、地元のクラブ、KBKの体育館を借りて選手たちの練習。

こちらは地域ごとにクラブがあり、このような体育館が多いらしい。

KBKに着くと韓国の選手たちがすでに練習をしている。韓国がヨーロッパの大会に参加するのは初めてだそうで、ジャパンオープンの覇者、黄善愛など、ヨーロッパの人々は大変興味深く見えているようだ。

男子は早朝に市内をランニングし、ひと汗かいたらしく、すぐに羽根打ちに入る。ベテランぞろいらしく、コンディションのつくり方は、もうお手のものといった感じ。

飯野選手はまったくリラック



大使を囲む日本選手団

スムード。バドミントンを楽しんでいるように見える。

土田選手はよく声を出す人だ。

銭谷―長谷川のシングルスゲームは、ファイナルへともつれこんだが、時間切れ引き分け。

辻選手は緊張の面持ち。たった一人、全英選手権の予選会に出場するためか。

女子は池田コーチの指揮のもと、徳田選手を中心にランニング、サーキットトレーニング、基本練習、ゲーム練習と2時間ほど汗を流す。

時差ぼけのせいで、身体が重く、初日の練習が一番つらいそうだ。しかし、しっかり汗を出し、今日一日は眠くても決して夜になるまで眠るのをがまんすれば、ほとんどこちらの時間に、身体が慣れるという。

選手たちの練習が終了すると、すぐにここのクラブの子供たちが、ラケットを手にコートに集まってくる。下は小学校1、2年から、上は中学3年生といったところか。

みんなピンク色の肌をした足の長い子供ばかり。金髪がかわいい。腕前のほどはまだまだ羽つき。この中から、デルフス級の選手は望めそうもないかな？

3月10日（火）

午前中フリー。

少ない時間の合間をぬって、女子の選手たちはショッピングに出かける。

ホテルから15分ほど歩くと、通称「ウォーキングストリート」いわば日本の銀座通りと言ったストロイエ通りに出る。

物価は日本とほぼ同じといったところ。しかし毛皮や皮製品は絶対に安い。他に北欧独特の編み込みのセーターに帽子。アイスウールというモヘアのセーターなど、魅力のあるものばかり。

日本では高いオレンジもこちらでは道端に山積みで売っている。言葉はなかなか通じなくても、身振り手振りでなんとかなるものだ。あとは度胸だけ。

中でも一番ものおじしないのが陣内選手。平気で日本語で勝負している。それでまたなんとかなるから不思議。

午後からはKBKで練習。夕方には、コペンハーゲン効外のSONYホールで、デンマーク協会主催のプレスミーティングが開かれる。

日本からは男女合わせて7名の選手が代表で出席。会場にはコーペンやデルフスの顔もあった。

ナショナルチームの選手団とは別に、日本からジュニアチームが来ている。今晩、やはりコペン郊外のストラップホールにて、デンマークのジュニアと対抗戦を行うというので、さっそく行ってみることにする。

日本チームは、中学生を含む男女合わせて14名。3月上旬に日本を経ち、イギリスジュニアチームとの親善試合を終え、今日夕方コペンハーゲンに到着。

シングルス、ダブルス合わせて16試合が行なわれたが、結果は1勝15敗で、みごとに惨敗。

いくら日本の選手は、社会人になってから強くなるとは言っても、「世界のジュニアは、こんなにも強いということがわかっただけでもプラスになった」などと言っている段階ではないだろう。

大島・山本、予選会を勝ち抜き本大会へ出場。

3月11日（水）

着いた日と同じように雨。雨といっても、霧が大粒になったような、じっとりした感じ。

選手は9時よりKBKで練習。昼食は日本大使館からのご招待。

大使館は、ホテルからタクシーで20分ほどのところにある。

なんと出ていらした大使は女性。上品そうな奥様といった感じだ。自己紹介のあと、おしゃべりとビュッフェ形式の食事。たけのこや、しいたけの煮物などの配慮が嬉しい。

天ぷらが出てきたときの、全員のピラニアのような群らがりようは、思い出すと笑いが止まらない。

さて、ここコペンハーゲンで驚いたことは、コインランドリーなるものがあったこと。さっそく洗濯物をかかえて行ってみる。

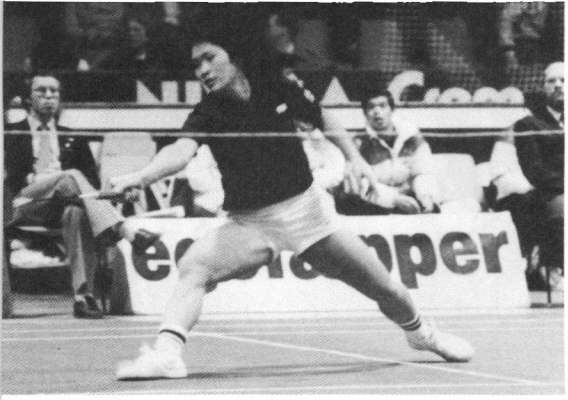
夜は郊外のストラップホールで、デンマークオープンの男女シングル予選会が行なわれる。

日本からは、ジュニア全員が参加。女子は全滅だったが、男子からは、大島君と山本君が勝ち上がったというううれしいニュース。そこで彼らにちょっと話を聞いてみることにする。

大島君……イギリスのジュニアもデンマークのジュニアも、とても強くて、これではとても予選会では勝てないと思ったけ

買い出しもまた楽し





好調そうな近藤

れど、今日は今までのうちで一番調子が良かった。

僕の入った山は3回勝たなければ出場権が得られなかったわけだけど、1回目と3回目は、わりと楽に2−0でかたがついた。

大変だったのは2回戦だ。相手は地元の選手で応援もすごかった。ファイナルのセッティングの末、やっと出場権を手に入れることができた。

山本君……僕はとてもラッキーな組み合わせに恵まれた。2回勝てば出場できる山で、1回戦の相手は棄権。

ラッキーと言っても、2回戦の相手に勝つのはなかなか大変だった。彼は25才で身長が190cmもある大男。ドンブンクリアーを打っても、ちょっと手を伸ばしただけでカットされてしまう。

そこでハイクリアーをつかって攻める作戦に切りかえた。これがうまく的にあたり、あとは相手のスマッシュをカウンターぎみのレシーブで切り返し、うまく自分のペースにもっていくことができた。

3月12日（木）

こちらに来てはじめての雪。

コペンハーゲンが、よりコペンハーゲンらしく染まる。

正午よりいよいよデンマークオープンが始まる。

日本男子は、飯野・土田のダブルスを残し全滅。

銭谷選手の対戦した相手は、予選から勝ちあがってきた、無名選手というのだから、こちらの層の厚さにびっくり。

白人選手もとにかくよく拾う。韓国の選手のねばりとはちがって、身体が追いつかなくても、手首で追いつくといった感じ。

今回は、2回戦で敗退してしまったが、イギリスのジョリーなんかが、その一番良い例。

インドの女性の選手を見たのは初めて。サリーでも着ていた方がよっぽど似合いそうな黒髪の美人。それが短パンにシャツなんて、なんとなくおかしい。それでもけっこう強いのに、またびっくり。

日本の女子のジュニアは問題外。

男子は予選会から勝ち上がった山本君と大島君が出場したが、どちらも一回戦で負ける。

期待の陣内、高峯選手は、ダブルス、シングルスとも一回戦敗退。

北田選手も、デンマークのジュニアNO1に2回戦で敗退という残念な結果。

近藤選手は気合が入っている感じ。最後まで頑張ってほしい。

徳田選手、米倉選手も順当に勝ち進み、女子はタイトルが狙えそう。

試合が終了したのは真夜中の1時。日本ではちょっと考えられないハードスケジュール。

この日程の中でのコンディションづくりは、さぞかし大変なことだろう。

近藤、好スタート、デルフス組、若手に苦杯。

3月13日（金）

本日の好カード。4入りでプリとハルトノが当たる。

観客も報導人たちも興味深くそのコートを見つめる中、ラブオールプレー。しかし2人とも年をとったなー、という感じ。ガムシャラさはなく、きれいな試合。結局1ゲーム目7本、2ゲーム目2本と、あっさりとハルトノの勝ち。試合中にいためたハルトノの足首が心配。

東海林選手は8入りで、ジャパンオープンのとき北田選手を破った韓国の高校生、金練子と対戦。

すべり出し好調。2ゲームで楽勝と思いきや、セッティングにもち込まれ、ファイナルゲームへと。しかしここでは、相手のねばりを振り切り、いよいよ第一シードのリーン・コーペンとの対戦が決まった。

近藤選手は、やはり8入りで地元デンマークの新鋭、ソーレンセンと手に汗握る大接戦を展開。

1ゲーム目を落とし、2ゲーム目はなんとか9本におさえてファイナルゲームへと持ちこんだものの、すでに8−2とリードされる。

しかしここからが、近藤小織女の意地の見せどころ、じりじりと挽回。10−6より5度のマッチポイントを切り抜け、着実にポイントを重ね10オール。

会場は、ソーレンセンがナイスショットを決める度に、われんばかりの拍手。

このセッティングの余中、近藤側のバックラインに落ちたシャトルの判定を一瞬、ラインズマンが躊躇。もしインならばゲームオーバー、一巻の終り。

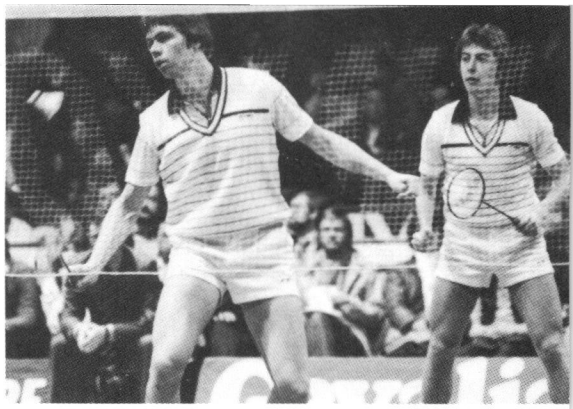
日本ベンチは冷汗……ラインズマンは「見えなかった」とコール、レットとなる一場面もあった。

この後、2本つづけてポイントをあげ、ゲームオーバー。本当に心臓に悪いゲームだった。

これで日本女子は、8に近藤、米倉、徳田、東海林と4人を残す好成績。あとは誰が優勝できるかだ。

準決勝、決勝よりも、このあたりの試合の方が、見ている者にとっては面白い対戦が沢山ある。

まず、デルフス・スコブガードのダブルスが、母国のジュニアNO1のダブルスにストレー



キルドセン・クリスチャンセン組

ト負け。

会場はもちろん、ジュニアの応援。デルフスたちがミスをすると大喜び。そんな観客に、両手を広げ「まあ、しかたないでしょ」といった表情の2人。激しい試合の中にも、なごやかな雰囲気があった。

ベラワティ・イメルダのダブルスは、韓国の高校生ペア金練子・柳尚希に、1ゲーム目10本、2ゲーム目4本という無惨な成績で敗退。

初出場の韓国に、それも17才のダブルスに負けたとあって、インドネシアベンチはショックを隠しきれない様子。

シングルスでは、ベラワティはあぶなげなく4入りを決めた。

東海林選手は、コーペンのクロスカットのスピードについてゆけず敗退。

徳田選手もベラワティの前に兜を脱がざるを得なかった。

近藤選手、米倉選手は相討ちとなり、近藤選手に軍配。

カナダのウエンディー・カーターは、ジャパンオープンでの雪辱を果たし、黄善愛にストレート勝ち、4入りを決めた。

日本男子の方は、このデンマークオープンのかつての覇者でもある、飯野・土田組だったが、今回は精彩なく、3回戦で、スウェーデンのヨハンソン・ピーターソン組に敗れ去った。

クリスチャン・チャンドラ組も、4入りでヒヤリとする場面もあったが、底力で切り抜け、明日の準決勝へと駒を進めた。

この間に、日本のジュニアチームは、スウェーデンのジュニアとの親善試合に。

陣内・高峯両選手は、オランダで開かれる五ヶ国のジュニア対抗のため、コペンハーゲンを離れた。

吉報を期待したい。

徳田・米倉組と近藤が順当に決勝進出果たす

3月14日（土）

韓国の選手たちは、こちらへ来てから、電気釜を買ったそうだ。

選手、金コーチとマネジャーを含めた6人は、毎晩その電気釜でご飯を炊き、持参した一ヶ月分のキムチで、マイペースの食生活をしているという。

あの細い身体からにじみでるパワーは、これだったんだ。

でも日本選手だって負けてはいない。北田、冨田両選手のベッドの脇は、積み上げたカップラーメンで埋れている。陣内選手も、出発前の食料の買出しに、軽く一万円は使ったなんて言っている。

食糧部隊の近藤選手は、キャリングが二つ。小さい方には、シューズ、ソックス、シャツなど。大きい方は、と開けてみると……おせんべい、お餅、しょう油、うなぎの蒲焼き……出てくる、出てくる、最後にはきな粉まで。

試合の取材より、各国選手の食生活をさぐる!!なんていう方が、面白いんじゃないかな。

さて、準決勝は午後2時から始まる。

4面あったコートが、中央2面だけになり、観客もぞくぞくと入り、椅子が埋まっていく。

男子シングルス、ハルトノ対プラカシュ。

1ゲームを先取したハルトノ、2ゲーム目後半よりミスが目立つ。プリとの試合で痛めた足首は、もう大丈夫と聞いているけど……。

ファイナルゲームに入り、ハルトノのスマッシュはサイドラインを割るケースが目立つ。オーソドックスなシングルスを繰り広げた2人だったが、結局最後は、ミスの少ないプラカシュに軍配が上がった。

ハンセン対ハディヤント。

ハディヤントにいつものような、ワイルドさがない。15—4、15—6で、あっさりと敗退。

それにしてもハンセンはよく拾う。足が短い分だけ、腰が安定しているのかな?

日本女子は、徳田・米倉のダブルス、近藤のシングルス。どちらもあっさりと勝つ。

イギリスのギルクス・キルビントン組は、ペリー・ウエブスター組を上回ると、前評判は高かったが、キルビントンにミスが多く、まだダブルスになりきらない、といったところ。

面白かったのは、男子ダブルス。

昨日、デルフス・スコブガード組を破った、デンマークのジュニアNO1、キルドセン・クリスチャンセン組対スウェーデンのベテラン、キールストローム・カールソン組。

1ゲーム目をたった3本で落としたキールストローム題、2ゲーム目も8—0とリードされ、もう後がない。キルドセン・クリスチャンセン組は、若いだけに波に乗ると手がつけられない。

しかし〝若さ〟の持つ強味は、また逆に弱点でもある。

勝ちを意識し出した2人は、キールストローム組の執拗な粘りにてこずり、攻め急ぎがミスへとつながる。

誰もが、ここからの逆転は不可能と思ったに違いない。しかし、この先キールストローム組は、彼らに1ポイントすら与えず、15本を連取し、ベテランの強さを見せつけた。

ファイナルゲームは、一進一退のゲーム展開となったが、2ゲーム目の内容は、キールストローム組に自信を与え、若い彼ら

には不安となってのしかかってきたに違いない。

最後はキルドセンのスマッシュミスで、ゲームオーバー。退場する4人の選手に会場中が、例の調子を合わせた拍手を鳴らし、健闘をたたえていた。

もう一つの山は、クリスチャン・チャンドラ組対スティーブンス・トレジェット組。

今大回のインドネシアペアは、もう一つ絶好調とはいい難い。チャンドラの動きは重いし、彼の方へスマッシュが打たれると、ヒヤリとする。クリスチャンの前衛にもミスが目立つ。とは言っても、あっさり負けるような彼らではない。

一方のイギリスペアも、8入りで日本の飯野・土田組に、ファイナルのセッティング、4入りでも、マレーシアのシデク兄弟にファイナルゲームと、苦しい戦いの連続。

しかしここに来てとうとう力つきてしまった。2ゲーム目、セッティングに持ち込んだものの、インドネシアペアにみごとに逃げ込まれた。

インドネシアベンチには、見なれない顔が一つある。

ベラワティの横にいつもくっついている。ベラワティは、あのとおりの長身だし、彼は小柄な男性なので、どうしてもくっついているという感じ。やっぱり彼がウワサのダンナ様なのだそうだ。

ハンセン単を制す。近藤はコーペンに完敗。

3月15日（日）

午前中、練習する選手にくっついて試合会場に行ってみると、ファンファーレを流し、表彰式の練習をしている。賞状に銀のカップ、それにスポンサーのチョコレートメーカーからの50cm四方もありそうな、大きなチョコレートの箱がある。小さな男の子と女の子が花束を渡すらしい。あの台の一番高い所に立つのはいったい誰だろう。

午後2時、試合開始。

男子シングルス決勝、ハンセン対プラカシュ。

すべり出しよりプラカシュらしからぬミスを繰り返す。今日のプラカシュはネット前のレシーブが低い。

それに対し、ハンセンはネットインを決めるなど、積極的な攻め。スマッシュを打った後のネット前へのダッシュが速い。

2ゲーム目、10—3でハンセンリード。長いラリーの末、プラカシュにサービスオーバー。せっかくの反撃のチャンスを、1本目のロングサービスからアウト。

10—3でサービスオーバーを繰り返す。10—4、10—5、と挽回の足がかりをつかみかけたが、再びロングサービスをアウト。

サービスが入らなくては、さすがのプラカシュもポイントをあげることはできない。結局このままポイントは5本止まりでゲームオーバー。

デンマークオープン一万二〇〇〇クローネ（日本円で約四〇万）の賞金は、ハンセンが獲得。この大会初優勝を飾った。

女子シングルス、コーペン対近藤小織。

近藤選手は、ヨーロッパでは大の人気者。各国の選手が〝サオリ〟と気軽に声をかけてゆく。

1回戦と準決勝が、一番緊張すると言っていた近藤選手。決勝はどうだろう。

まだコーペン相手に、1勝を挙げたことがないだけに、是非とも頑張ってほしい。

この後ロンドンで開かれる、全英選手権では、1回戦でこの2人がぶつかるというなんともひどい組み合わせ。

去年1年、海外では成績のふるわなかった近藤選手。少しでも成績が悪ければ、組み合わせに影響するという厳しい世界。これは文句を言う方が、間違っているのかも知れない。

さて、近藤サービスでラブオールプレー。

しかし、期待もむなしく、1ゲーム目は5分で終了。

どこを攻めても穴のないコーペン相手に、なすすべもなしといった様子。

2ゲーム目も2ポイントしか挙げられず、ただ目立ったのは、コーペンのショットの正確さと、対する近藤のミス。これでは勝てるはずがない。

今日行なわれた決勝5試合のうち、唯一接戦だったのがこの男子ダブルス。クリスチャン・チャンドラ対キールストロム・カールソン。

一ゲーム目を一方的にものにしたインドネシアペアは、2ゲーム目に入り猛反撃に合う。

チャンドラのレシーブが悪いとみたスウェーデンペアは、チャンドラの前に球を集中。ラケットの面をはずれ、フレームのコーンという音と共に、シャトルはネットを越えない。2ゲームで片をつけたいインドネシアペアは、セッティングでの必死のレシーブもむなしく、勝負はファイナルゲームへと持ちこまれた。

しかし会場の大半は、インドネシアペアの優勝と信じていることだろう。それほどインドネシアという言葉の響き、コートに入った2人の姿には、威圧感がある。

チャンドラの手首の強さと、クリスチャンのカンの鋭さが光

気合い充分のハンセン



った。

クリスチャンという人は、いったいどういう球の読みをするのだろう。紙の上に線を引くような動きをする。知らないうちにネット前にいて、シャトルは相手のコートに落ちているのだから……。

女子ダブルスは徳田・米倉組対ペリー・ウェブスター組。

もう互いの強み、弱みを知りつくしているはず。しかし思うようにはいかないのがこの競技。例によってサービスオーバーを繰り返しながら、1ポイントづつを 積み重ねるシーソーゲーム。この2つのペアに限って、どちらが一方的に勝つなんて、めったにあることではない。

日本で勝つためには、打って出なくてはいけない。しかし今日の徳田・米倉は、レシーブにまわることが多い。

1・2ゲームを通してミスが多く、ラリーが続かないという印象。観客の拍手までなんだか迫力がない。最後までペースをつかめず、守勢をくつがえすことができないまま、勝ちを譲ってしまった。

ミックスは、順当に勝ち上がった第1シード、第2シードの対戦。クリスチャン・イメルダ組とトレジェット・ペリー組。

今、世界でこの2つのペアの右に出るペアはないだろう。

今大会のイメルダは元気がなく表情にも若さが感じられない。クリスチャンも、そんなイメルダをカバーするだけのファイトは、残っていないようだ。そんなら何本でもいけそう。

ソフトクリームもとびきり大きい。目の前で焼いているコーンは、クレープをちょっと厚くしたようで、熱いうちに手でくるっとまるめる。中に入れてくれるアイスクリームも盛沢山。その上にこれまたたっぷりと生クリームとジャムをかける。いったい何カロリーあるだろう。

2時にはロビーに集合。ホテルの窓から見えた港より、船でスウェーデンに向う。〝オーバークラフト〟と言い、波の上を飛ぶように走る。なんと隣りの国までたったの30分。こんなに近い距離でも外国は外国。船内にはちゃんと免税店もあり、船を降りてからは税関も通る。ちょっと日本では考えられないど。

税関をくぐり抜けると、ここはいよいよテニスの王様、ビョルン・ボルグの国、スウェーデン。所はマルメ。港からバスで約15分、着いたホテルはエッソモーターホテル。3階建てだが、なかなかの設備の良いホテル。一階は、すべて身体障害者も使用可能な部屋が並んでいる。さすが福祉国家。でも、バスルームやベッドのわきなど、あちこちについている非常用のボタンをおさないように、気をつけなくちゃ。

ここは、モーターホテルと、その名の通り、長距離ドライバーのためのモーテル。コペンハーゲンとはちがい、野中の一軒家という感じ。食事をするにもホテル内にあるレストランの他はない。その名は〝タベルナ〟これは、ギリシャ語で、居酒屋という意味。言葉というのはおもしろい。減量中の人にとっては制御装置の役目になるかな?

日本では、毎日かかすことのない練習も、遠征中はなかなか思うようにラケットを握ることができない。食事はどれも、力ロリーの高いものばかりとあって、太目になってきた人もちらほら。ベテラン選手は、さすがにコンディション作りを心得てマイペースの生活。男子は毎朝のランニングをかかさない。

各国の選手がジョギングをする姿をみかけるし、なわとびをしている選手もいる。トーナメントを勝ち抜くために、それぞれ頑張っている。

夜もふけ、高峯、陣内両選手の部屋を訪問。オランダで行なわれたジュニアオープンの話を聞くことにする。

日本からは、男子2名、女子2名の参加が予定されていたが、男子は棄権、結局この2人だけが出場。

イギリス、デンマーク、ベルギー、ドイツなど合わせて7ヶ国のジュニアの中で、みごとに単複を制し、戻って来た。

シングルスでは、準決勝でデンマークのシャーロット・ハットンと高峯が対戦。

高峯惜敗、陣内がジュニアの単複を制す活躍

3月16日（月）

2日つづけての雪。細かくてサラサラした雪が降る。

日本のように水っぽい大粒のかたまりで、あくる日、道路のわきにきたなく残ったりはしない。海岸の砂のように、吹きよせられたようにさらりとつもる。カサをさして歩く人は見かけない。コートやセーターにしがみついた雪たちも、家に入る前にひとはらいすれば、それですむ。

そんな雪の降る中、選手たちは、今日が最後とショッピングに出かける。ここはさすがに女の子。指輪にペンダントとあちこちの店のウインドーをはしごする。お気に入りの品物が見つかったかな?

昼食は、名物のホットドッグ屋さんへ行く。日本では味わえないソーセージのおいしさ。こ

初陣を飾った高峯・陣内



ファイナルゲーム、マッチポイントを握りながら、ハットンの長身からくり出すスマッシュの前に敗退。

しかし決勝では、陣内が、みごとに先輩高峯の仇を討った。今度は、反対にマッチポイントをとられてからの逆転。ファイナルゲーム、9オールからのセッティング。ハットン2マッチポイントから2度のサービスオーバーを切り抜け、優勝。

1m75cmはあると思われる長身の上に横幅もがっしり、高い打点からのドロップと重いスマッシュに苦しめられたと言う。

ダブルスは、2回戦が山。

これまた長身相手に苦しめられたが、その他は一方的なポイントで勝負を決めた。

日本の高校生では、めったに経験することのできないミックス。それぞれ外人の選手を組んで出場することになった。

高峯組は、残念ながら2回戦敗退。

陣内はイギリスの男の子と組んで決勝まで進出。しかしここで思わぬハプニング。陣内選手、脚にケイレンの前兆で棄権。準優勝にとどまった。

顔はにきびだらけで気に入らなかったけど、プレーは抜群だった。他のペアはみな前後衛のミックス独特のフォーメーション。でも私たちは、言葉が通じないのでふだんのまま、ローテーションで動き、相手がそれに合わせてくれた。……とは陣内選手談。

それにしても、2人にとっては、貴重な経験になったことだろう。

徳田組、信じられぬ不覚。高峯組が決勝進出。

3月17日（火）

スウェーデンオープン始まる。

棄権が多いことで有名なこの試合。今回もそのため、6回もドローの変更があった。カナダのウェンディ。カーターはじめ、強い選手たちは、次の全英オープンにそなえ、コンディション調整のため、コペンハーゲンより、すぐにロンドンへ渡ってしまった。

日本勢は近藤・高田のダブルス棄権の他は、全員参加。

銭谷選手は、地元スウェーデンの選手と組む、ダブルスとミックスの出場も決まり、張り切っている。

会場は、マルメ市内のバルティスカホール。コートサイドには、観葉植物を配置するなど、デンマークオープンの時と同様に装飾にこっている。

初日、出る選手、出る選手、負ける。

長谷川、東海林、高田、近藤、陣内のシングルス、長谷川・辻のダブルスが敗退。

3月18日（水）

今日は、近藤選手の誕生日。

バドミントンの選手は、なぜか早生まれの人が多いが、遠征に誕生日をむかえる人が4人もいる。ちなみに、銭谷、陣内両選手がそろって3月12日。北田選手は3月31日で19才になる。

試合は午後1時より。各ベスト4までを決める。

まず銭谷選手。8入りでスウェーデンのノルディンと2時間近くにわたる長い試合。ほとんどの国際試合で使うシャトルはRSL。日本のシャトルに比べると、ちょっとお粗末な感じで、思いきりスマッシュを打てば、簡単につぶれる。

ファイナルゲーム、7—0とリードされ苦しい戦い。8—4でチェンジエンド。相手は猛然と打って出る。互いによく打ち合い、迫力のあるフリーの応酬。12—10で相手のプッシュがネットイン。あわや13—10と思いきや、「ネットタッチ」のコール。

このチャンスをのがしてなるものかと連続ポイントをあげ14—12と逆転。ここでサービスオーバーも、いきなりスマッシュでつぶす。最後は相手のクロスネットのミスでゲームオーバー。あー疲れた。

4入りでは、デンマークオープンの覇者ハンセンと対戦。

しかし善戦むなしく敗退。ベスト8にとどまった。

飯野、土田組は、4入りでインドネシアのエルタント・ハディボウ組と対戦。

1ゲーム目、持ち前のスピードで、インドネシアペアに手も足も出させず。しかし2ゲーム目後半より体勢が逆転。今までに叩き込んでいたシャトルを、反対に拾わされることになる。

土田選手、シャトルに飛びつき、勢いあまって、ライオンズマンとともに転倒という一場面も。

ファイナルゲーム、どちらのペアもスマッシュを打ちはじめたら、決まるまで打ちつづける。追いつ追われつの好ゲーム。しかし結局は、インドネシアペアのワイルドさとパワーに圧倒されてしまった。

これで、また日本男子は全滅。ベスト4の壁は厚い。

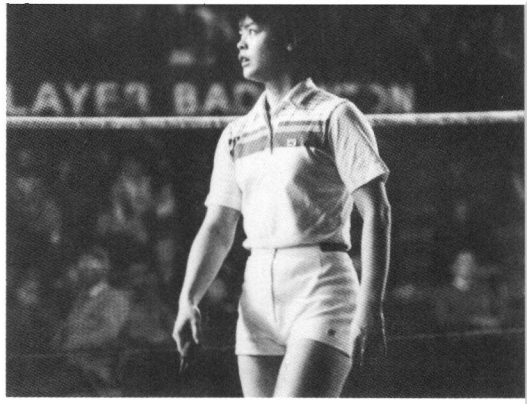
女子シングルス、デンマークのキルステン・ラーセンと、高峯選手の試合。長身のラーセンと並ぶと、まるで大人と子供。ラーセンの肩ぐらいに彼女の頭がある。

1ゲーム目、高峯好調にとばす。得意のヘアピンがフェントぎみに決まり、ラーセンの体が泳ぐ。

10—5とゲームポイントを握

ベスト4にあと一歩の銭谷





黄と大接戦を演じた北田

女子ダブルス2回戦。大番狂わせが起こった。

この大会、第1シードの徳田・米倉のダブルスを破るペアは、まずいないだろうと思われていたにもかかわらず、いつものパートナー、ウェブスターよりも力は一段階下のリードビター上とペアを組んだノラ・ペリーに、デンマークオープンに続き、再び不覚をとってしまった。

まだ最高調ではないにしろ、1ゲームを15—7で先取した日本ペアの勝利を、誰もが信じていたに違いない。

2ゲーム目、13—6とリードを許す。しかしまだこの段階でも、いつものように、ここからが強い、いつか挽回するだろうという気があった。ところがなんと気がついてみればファイナルゲーム。

5分間のインターバルを終え、コートに戻った2人は、反撃に出るどころか、レシーブにまわってばかり。絶好調のあのレシーブの固さはどこへやら。特に今日の米倉は動きが悪いと知ったイギリスペアは、集中攻撃を加える。

8—1とリードされ、チェンジエンド。2人の歯車は、ますます噛み合わなくなるばかり。互いを信頼しあえなくなっては勝てるはずはない。ダブルスというものの難かしさを 目のあたりに見せつけられた一戦だった。

しかし、日本ペアばかりを責めるのは、片手落ちだろう。

ペリーの前衛のうまさの右に出るものはいない。イギリスペアはどのダブルスもそうだが、前衛での球さばきがうまい。さすがにミックスの盛んなお国柄だ。日本も、これからはもっとミックスダブルスに力を入れるべきではないだろうか。

日本ベンチをとりまく、黒い霧をふり払うかのように、ここスウェーデンオープンでは、ヤングパワーが爆発。

日本の高校チャンピオン、高峯・陣内組は、2回戦でデンマークジュニアNO1ペア、キジャー・ニールセンと初顔合わせ。1ゲーム目をセッティングの末、落としたが、続く2・3ゲームを連取。決して楽な戦いではなかったものの、高峯の勝負強さと、陣内のキレのよいスマッシュが光った。

準々決勝では、地元スウェーデンのペアと対戦。5本、3本と一方的な勝利。明日の準決勝進出が決まった。

る。しかし簡単に勝たせてくれるような相手ではない。長身にものを言わせ、スマッシュをたたきこんでくる。2階の窓から落ちてくるようなスマッシュで、あっという間に10—10とおいつかれてしまった。

後はまったくラーセンペース。腰の高いラーセンを、ネット前にひきつけ、体勢を崩そうにもスマッシュをレシーブできないことには、手も足も出ない。

小さな体で、精一杯コートを走りまわった高峯だったが、ベスト4進出はならなかった。

一方の北田選手は、韓国の姜幸淑を11—5、11—0。イギリスのギリアン・クラークを11—5、11—0と一方的なポイントで一蹴。明日の準決勝へと駒を進めた。

北田の奮闘むなし、新鋭エルタント組デビュー

3月19日（木）

けさは目のさめるような青空。白と紫の雲が浮かぶ。しかし雲の流れは速く、天気はあっという間に変り、部分的に雨が降ったりする。

風に向って歩いていると耳がちぎれそうに痛くなる。北極のそばにいるんだなーと思う。

ここは郊外のせいか、あまり人影を見かけない。人間さえみなければ、日本にいるようだ。エッソ・モーターホテルは、その名のとおり長距離ドライバーのためのモーテル。まわりは広い道路と団地。

土地が平らなため、建物はどれもゆったりと並んでいる。日本の団地のように強制収用所のようではなく、高級マンションみたいに見える。どの部屋の窓にも鉢植えが置かれ、レースのカーテンが色とりどり。こちらの人は、住居にはお金をかけるようだ。

しかしどこの街もそう大差はないようだ。コペンハーゲンもそうだったように、ゴミも落ちていれば、犬のフンだってある。公衆のトイレの使い方は、決してきれいとは言えないし、暴走族のよくやるスプレーペンキの落書きも見かける。

今日の準決勝は夜の7時から始まる。

ここマルメでは、練習場がないため、早めに試合会場へ行き、練習する他はない。

北田選手、韓国の黄善愛との対戦を控え、落着かない様子。念入りなウォーミングアップを繰り返す。

準決勝2試合が並んで行なわれる。一つは北田対黄（ファン）、もう一方はイバナ対ラーセン。

北田、表情も動きも固い。黄もいつになく緊張した様子。2人のピノキオがコートの中を動いているといった感じ。

しかしラリーを続けるうちに北田に、いつもの〝もうけ!!〟が出る。これはなかなかいい調子だぞ。6—6、8—8と一進一退でゲームは進み、10—9と北田ゲームポイントを握る。

ここで痛いジャッジミス。バ



エルタント・ハディボウ組

ツクラインぎりぎりに落ちた、黄のハイクリアーを北田「アウツ!!」しかしラインズマンのサインは「イン」

セッティング1オールで、黄のゲームポイント。今度は北田の打ったハイクリアー、ラインズマンは「アウト」。北田にとっては、苦しいゲーム展開となった。

2ゲーム目、両者クリアーでていねいにコーナーをつく、長いラリー。しかし後半に入り、北田の攻め急ぎが目立つ。無理は体勢から放つスマッシュを、ネット前に返され、ノータッチ。こんな場面が何回あっただろう。

反対に黄のスマッシュは、確実に北田のボディーを狙ってくる。黄と対戦した選手が誰もが「重くて速い男のようなスマッシュ」と表現する。

北田の「イッポン」という声、黄の「ハッ!!」と気合いをいれる声が、会場に響く。

隣りのコートでは、イバナ対ラーセン。こちらはすでにファイナルゲームに入っている。

1ゲーム目、ラーセンのスマッシュに手を焼いたイバナ、2ゲーム目からは、スマッシュを打たせない作戦。ネット前での器用さはイバナが一枚上。おもしろいようにクロスのネットが決まる。

2つのコート、ほぼ同時に勝負がつく。

北田対黄が2ゲームを消化する間に、こちらはファイナルを戦った。北田と黄のラリーがいかに長く、接戦だったかが、これでおわかりになるだろう。

男子シングルス、ルイス・ポンゴ対レイ・スティーブンスの一戦は、なかなか見ごたえがあった。

一時は「羽根打ちサーブ」に猛反対だったヨーロッパも、最近では大はやりらしい。この試合も、スティーブンスは、1・2ゲームはすべて羽根打ちのショートサービス。ファイナルゲームに入り、わずかにロングサービスを見せただけ。ポンゴは、十八番のショートサービスを奪われ、ペースを乱し、1ゲーム目を失ったが、目には目を、2ゲーム目からは羽根打ちサーブで応接。ひと昔前のバドミントンからは、とても考えられないような光景。

大砲のようなスマッシュを打つスティーブンス相手にポンゴはコマネズミのように動きまわる。

ファイナルゲーム、14—10とポンゴマッチポイントを握ってからのスティーブンスは、曲打ちを披露するなど、観客への大サービス。股下打や、スマッシュを打つと思いきや、わざと空振りをして下で拾ったり、会場をおおいに湧かせた。

デンマークオープンでは、黄善愛。姜幸淑ペア、金練子・柳尚希ペアで出場していた韓国は、ここに来て、黄・金組、姜和柳組とペアをかえて登場。

高峯・陣内は、実力順でいくと三番手の柳、四番手の姜が組んだダブルスと準決勝を競うこととなった。

三番手、四番手とはいっても韓国のナショナルチーム。柳のネット前の速さにはおどろかされたし、姜のレシーブは固い。

今日の2人には、80点をあげてもいいだろう。高峯のうまいリードで陣内のスマッシュが切れ味を発揮し、確実にポイントを重ねていった。決勝進出を果たし、恥かしそうに照れ笑いをしながらベンチに戻ってきた顔は、まだあどけない。

男子ダブルス準々決勝。カルトノ・ハリヤント組対エルタント・ボディボウ組。

インドネシア同士の対戦には、いつもなにかしら作為的な匂いが漂うが、この2つのペアはきっと国内でもライバル同士なのだろう。会場全体に、ものすごい迫力が伝わってくる。

まるでジャングルの中の猛獣が4匹、命をかけて戦っているようだ。

ファイナルゲーム14—10でエルタント組のマッチポイント。しかしここからのカルトノ組の追いあげがすごかった。サービスオーバーを繰り返す中、数回のマッチポイントを切り抜けセッティング。この後、3ポイントのうばいあいにかるく30分はかかった。

結局、エルタント・ハディボウが昨年の全英選手権ベスト4のカルトノ組を破り、決勝進出をはたした。それにしてもインドネシアの選手層の厚さには驚かされる。毎年かならず、何人かの新人を世界へと送りこんでくるのだから。それもただ出場するだけではなく、世界に通用する選手たちなのだ。

"賞金稼ぎ"のペリー、天下一品の前衛を披露

3月20日（金）

スウェーデン協会の配慮による市内観光。

バスの中には、イギリス、インドネシア、韓国など、各国の選手の顔が並ぶ。

日本の選手が、試合中に「ヨシ」とか「いっぽん」などと声を出すのを覚えていて"What is mean YOSHI ?"と聞いてくる。

"It is nice or good"なーんて答えたりして。微妙なニュアンスを伝えるのは、むずかしいんだから。

マルメの街並は、コペンハー



決勝へ進出した高峯・陣内組

ゲンとよく似ている。石だたみの道に広い公園、レンガ造りの建物。それに野鳥がとても多い。こちらの雀は、日本に比らべるととても太っている。パンを食べてるからかな？

昼食は、市内のエレンボルムレストランで。一見教会のようなこじんまりとした白い建物。

韓国の黄選手、金選手らと一緒に席につき、バドミントンの話に花が咲く。（通じているのかな？）

陣内選手は、すっかり金選手となかよしになり、韓国語を教わっている。（ヨーロッパに来て韓国語を覚えて帰ったりして。）

陣内貴美子を韓国語で書くと「진나이 기미꼬」となるそうだ。

食後、韓国対日本の腕相撲選手権。

まず黄対近藤、立ち上がりから一気に叩き込んで黄の勝ち。

次に受けて立ったのは北田選手。

黄対北田、北田昨日の準決勝の雪辱なるか。……さてこれはなかなかの大相撲。まわりの応援にも思わず力が入る。最後、出せる力をふりしぼり北田の勝ち。腕相撲選手権チャンピオンの座についた。

スウェーデンオープンは、いよいよ決勝。

地元キールストロム組 ベテランの味を発揮。

男子ダブルスは、デルフス・スコーブガードを一方的に破って決勝進出、地元スウェーデンでの大会とあって、意地をみせるキールストロム・カールソン。

対するは、インドネシア、エルタント・ハディボワ組。

昨日は、みごとな逆転劇を演じ、注目をあびたインドネシアペアも、今大会絶好調のキールストロム・カールソンに6本4本のロウスコアで退けられてしまった。

それにしても、さすがにベテラン、と観衆をうならせたのはキールストロム。

インドネシアペアの機関銃のようなスマッシュ攻撃を、完全にシャットアウト。1、2ゲームを通じ、インドネシアペアが放ったスマッシュは数えるほど。逆にスウェーデンペアは、攻撃一本。終始マイペースの試合運びだった。

男子シングルスはルイス・ポンゴ対モルテン・フロスト・ハンセン。ポンゴに対し、ハンセンも、スティーブンスと同じようにショートサービスをおりまぜる。しかしハンセンのはフォアハンド。

1ゲーム目を18—14とセッティングの末、うばったポンゴは2ゲーム目に入り、急にブレーキがかかり、7—0とリードされる。

しかしここからじりじりと挽回。これがインドネシアの強さなのだ。

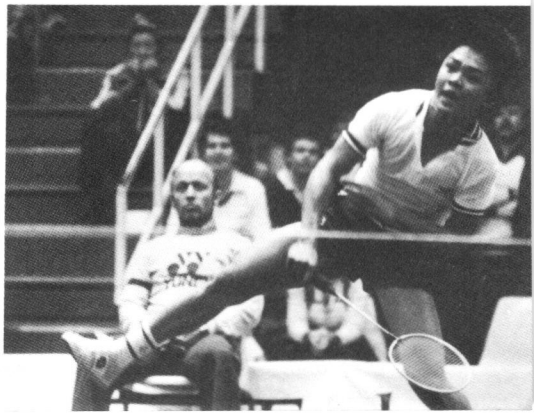
ネット前に置いたシャトルを後にクリアーされる時に、身体をエビのように反らし、とびつくように打つ、ポンゴのスマッシュは、まさに90%の決定率。

ポンゴ10—12とおいあげたところで、ハンセンとは思えぬ、不本意なミス。

ポンゴの例のショットサービスを、2本つづけてネットする。これで12—12。大事なところで、簡単に2ポイントをプレゼントしてしまった。

ゲームは、ポンゴの流れに傾いたまま、15—13でゲームオーバー。ポンゴの初優勝が決まった。

実力をつけたポンゴ



日本からは、唯一決勝進出を果たした高峯・陣内、ペリー・リードビターと対戦。力の差は歴然、ペリー相手に、いかにも国際経験が浅すぎる。

コートせましと走りまわったが、ペリーの壁のような前衛と、リードビターのスマッシュの前に涙を飲んだ。

しかし、瞳することなく、精一杯の戦いぶりは立派。

試合後、ベンチに戻った2人のくやしそうな表情が忘れられない。

黄がイバナを破る。日本に残るは全英のみ。

女子シングルスは、黄対イバナの対戦。イバナが切れ味のよい小刀だとすれば、黄は鉄の斧（おの）とでもいえようか。

今までは、世界に進出しなかった韓国も、黄がジャパンオープンを制してからは、一躍注目を集めるようになった。

1ゲーム目は11—2と一方的に黄。ミスが少なく、ねばり強い、その上決定打を持つ黄は、彼女の性格そのままをバドミントンにしているように思える。

イバナの気の強そうな顔も、そんな黄の前に、何度かゆがむ。

2ゲーム目、イバナの必死の追



近衛兵の交替式

いすがりをふりきり、黄の両腕が上った。

日本は、もっとミックスに力を入れるべきだ。などを書いておきながら、報道する側も、どうしてもミックスに関しては、手薄になってしまう。申し訳ない。

ベスト4に残ったのは、すべてイギリスペア。ペリーと組んだギルランドが、唯一スコットランド出身というだけだ。

さすが、の一言。

決勝は、ギルランド・ペリー組、デュウ・クラーク組の間で行なわれた。ペリーが前衛に立ちふさがれば、また一方的なゲームになると思えば、さにあらん。あわやファイナルゲームになるところ。

「賞金かせぎのペリー」の名の通り、ここでも、出場種目には必ず優勝。彼女にとっては、最高の年だろう。

しかし全英選手権ではそうはいきませんよ。デンマーク・スウェーデンのうらみを晴らすべく、日本ペアは手ぐすねひいて待っているのだから。

第71回全英オープンは桜咲くウェンブレーで

3月21日（土）

マルメ港より、午前10時のフェリーでコペンハーゲンへ戻る。ふるさとへ帰ってきたようなくすぐったさを感じる。

コペンハーゲンでは、土曜日、ほとんどの店が午後2時ぐらいになると店を閉め、日曜日は完全休業。日本人の感覚でいくと、土、日こそかき入れ時なのに。こちらの人はのんびりしている。

夜になると、ホテルのロビーには、ロングドレスを着た女性が沢山集まってくる。パーティーでもあるらしい。

私たちは、食べることぐらいしかすることがない。そろそろ日本の味が恋しくなってきたころ。〝レストラン東京〟へと出かけることにした。

天ぷら、冷奴、赤だし、お新香……。熱燗なども、少々たしなんだりして。

熊本の伊藤先生を囲み、飯野、銭谷両選手、バドミントン談議に花が咲く。

3月22日（日）

毎日正午ごろになると、コペンハーゲンの石畳の舗道に、近衛兵の楽隊のマーチが響いてくる。これは、アマリエンボー王宮の近衛兵交替式の前ぶれ。楽隊の行進の終着点は、アマリエンボー城の広場。

ここは、ホテルから5分足らずのところにある。さっそく出かけてみることにする。

広場は、4つのロココ風建築の大きな建物に囲まれ、この広場で衛兵交替の式が、賑やかに行なわれる。今日は日曜日とあって、見物人が沢山広場に集まっている。

この国の近衛兵は、熊の毛皮の大きな帽子をかぶり、青い服、黒いブーツに身をかためている。幼い少年たちの、憧れの的だろう。

この広場より、海岸沿いに10分ほど歩くと、アンデルセンの童話に出てくる、人魚の像が、岩の上にすわっているのを見ることができる。

コペンハーゲンの街では、あちらこちらに銅像を見かける。青さびのついた像と、この街はとてもよく似合う。

しかし海岸をもっと歩きつづけると、港の奥には、灰色の軍艦が停泊し、潜水艦を見かける日もある。一見、平和そのものの、のんびりした街も、いざとなれば戦うことの可能な国。広い公園の中にも、避難壕が掘ってあり、非常の時の準備ができている。

おとぎの世界から突然、現実にひきもどされ、ふとさみしい気がする。

明日はいよいよロンドン入り選手たちは全英選手権にそなえ、最後の調整のため、練習にむかった。

3月23日（月）

コペンハーゲン、カストラップ空港よりロンドンへ向う。飛行時間は約1時間半。到着と同時に、時計の針を再び1時間戻す。これで日本との時差は9時間となる。

ヒースロー空港より、バスで約60分、ウェンブレーに入る。ここは、ロンドンより北西へ約10kmの小さな街。観光地ではなく、飾り気のない庶民の街といったところ。

試合会場であるウェンブレーアリーナは、ホテルより歩いて5分。屋外競技場や、スポーツセンターの集まる一角にある。

選手たちは、休むひまもなく練習へ。約2時間、汗を流した。

3月24日（火）

こちらは、コペンハーゲンやマルメに比べると、とても暖か

人魚の像





なごやかな大会前夜

好調近藤も1回戦でコーペンと対戦の不運。

3月25日（水）

今年で第71回をむかえる、この全英選手権は、最も権威ある大会として知られている。この大会で優勝することイコール世界ナンバーワン、と言っても過言ではないだろう。

大会プログラムを見て「あれっ」と思う。昨日、レセプションの時に配られた組み合わせには、確か湯木博恵・JAPANの名があったはずなのに、今日のプログラムからは、それが消えている。

これは後になって聞いたことだが、湯木選手は、個人の資格で、全英選手権に参加を申し込んだ。この大会、過去4回のチャンピオンである湯木選手に対し、英国協会は予選なしで、直接本選へエントリー。

しかし大会前日になって、日本協会から「協会を通さないエントリーは認められない」とストップがかかったという。

相互の是非を追求したところで、水掛論になるだけだろうが、ベテラン湯木選手の名が、このく、日本から着てきた厚手のコートや、ダウンジャケットをもてあましきみ。桜の花も6分咲き。

さて、夜はホテルのホールにて、レセプションが開かれる。大会を明日にひかえ、なごやかなひととき。

いっせいに、会場の人々の目が入口に向けられたかと思うとインドネシアの選手たちの中にリム・スイ・キン。デンマーク、スウェーデンには不参加、全英一本にしぼり、今年こその闘志がうかがえる。

試合にないということは、とても残念な気がするのは、私だけだろうか。

外人選手から「ヒロエ・ユキはどうしたの？」と聞かれても事情を知らない日本選手は、何と答えていいのかわからない様子。ちょっぴり、お国の恥を披露した感じだ。

試合が開始され、まず目につくのは、ラインズマン。彼らはみな真赤なセーターに身をつつみ、ゆったりとすわっている。日本では、ラインズマンは、バックラインとサイドラインの角にすわるが、こちらでは、ラインの延長上に椅子が置かれる。

コートは横一列の7コート。古いホールは板張りの床で、その上にコートマットが敷いてある。選手が一歩踏み出すと、ドンドンミシミシ音がする。

小島一平さんのお話にもよく出てくるように、全英選手権でのセンターコート（第4コート）には、かならず好カードをもってくる。

この日、センターコートの名誉に輝いたのは、ハルトノ対デルフス、コーペン対近藤などなど。プラカシュが昨年のチャンピオンであるにもかかわらず、そのあつかい方は、常にリム・スイ・キンの次。キムがセンターコートで2試合を行なったのに対し、プラカシュはゼロ。

ハルトノ対デルフスは、かつての全英チャンピオン同士の対戦。デンマークオープンから、あまり好調とはいえないデルフスだが、ハルトノに対し、どこまで本気になるかが注目された。

観客の期待通りに、積極的な攻撃をしかけたデルフスだったが、ハルトノの壁のようなレシーブを崩せないまま、不名誉な1回戦敗退。

こちらのドローの決め方は、まず8シードを置き、その他はみなコインによる。そのため、1回戦からNo.1とNo.9があたってしまうこともあれば、No.8とNo.9があたることもあるというわけ。

もうひとつ、あまりにもアンラッキーな1回戦は、コーペン対近藤。2年前のこの大会では、決勝を競った2人だというのに。

1ゲーム目、近藤にミスが続く。気負いがあせりにならなければいいけど。またデンマークオープン決勝の時の繰り返しかと、目を覆いたくなるようなゲーム展開。

しかし10ゲームポイント2とリードされたところで、奇跡のような大逆転をやってのけた。

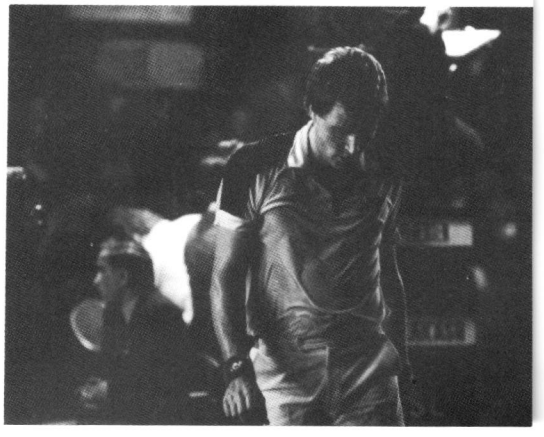
フォアのネット前で転倒したコーペンは、再びそこにシャトルが落ちると、どうしても臆病になる。それを見逃さなかった近藤は、再三その穴に適時打をおくり挽回。セッティングの末12—11で1ゲームを先取した。

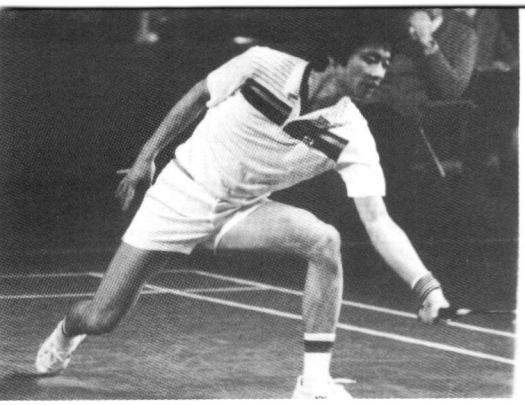
2ゲーム目も近藤は快調にとばす。しかし1ゲーム目とは逆に、今度は逃げる近藤をコーペンが捕まえた。

1ゲーム、2ゲーム、ファイナルゲームと、近藤としては尻すぼみの内容。2ゲーム目のリードを、そのまま押し切ってさえいればと悔やまれる。

コーペンだって人間。完璧なプレーができるはずはない。ただちょっと他の人よりミスが少たく、ただちょっとコントロー

不調だったデルフス





期待の長谷川も２回戦で

北田またしても貰に涙 日本男子はついに全滅

3月26日（木）

こんなにカラリと晴れ上がった日ははじめて。日本ならば、さしずめ花見日和といったところだ。

さて試合は午後3時より開始。8入りをかけて、銭谷選手とイギリスのジョリーが対戦。もちろんコートはセンターコート。出足好調の銭谷は、切れ味のよいショットで8―0とリード。しかしここでの長いラリーを落とし、サービスオーバー。まさにコートの中のシャトルを掃除でもするように「ひろいまくる」という表現がピッタリくる、ジョリーのレシーブにエンジンがかかってしまった。どこに打っても、はね返ってくるシャトルに、銭谷が根負けした形だった。

女子シングルスは、3回戦まで駒を進めたのが、米倉、北田、陣内の3選手。

黄と再び対戦する北田は、スウェーデンオープン準決勝の雪辱を果たしたいところ。しかし北田必死の食い下がりも、すっかり自信を身につけた黄には通用せず、2ゲームを通して3ポイントと、みごとにはねのけられた。

1回戦で、シード選手であるカナダのウェンディ・カーターを破って、大金星をあげたのがイギリスのカレン・ブリッジ。陣内は、そのブリッジと対戦。スロースターターの陣内は、今回も後半追いかける形のゲーム運び。しかし好調のブリッジ相手に、もうひとつ迫力不足。

結局、米倉1人がベスト8進出を果たした。

男子ダブルスは、飯野・土田組が、スウェーデンオープンで逆転負けを喫した、エルタント・ハディボウ組に対して、雪辱ならず。かつては全英ベスト4入りを果たし、あのチュンチュン・ワジュディ組に対し、ファイナルのセッティングを演じたほどの2人も、2回戦敗退。

辻・長谷川組も、同じく2回戦まで。世界の壁は、年々厚くなるばかりのような気がする。

期待の女子ダブルスは、徳田・米倉組、近藤・高田組がベスト8進出。明日の準々決勝へと駒を進めた。

―4でサービスオーバーの繰り返し。観戦する小飼監督は、寿命の縮む思いだったという。

最後は、辻選手のサーブを相手がカットミス。「オレより気の弱いヤツがいたんやなー」とは辻選手のお言葉。

しかし、せっかくこの難関を突破した辻選手も、プログラムを開けてみれば、なんと1回戦でZENIYA（JAPAN）新たな闘志を燃やした辻選手だったが、残念ながら本選での2回戦進出はならなかった。

ルが良いだけなのだ。しかしその〝ちょっと〟が最大の強み。近藤を相手に、十分にそれを披露してくれた。

本選への出場資格のなかった辻選手は、スウェーデンより直接英国入り、予選に出場。予選とはいっても、各国より抜きの選手たちが集まってきているのだから、本選出場の選手たちとは、みな紙一重の実力。

辻選手、1、2回戦は無事に通過。しかし3回戦の相手とは、ファイナルのセッティング、4

米倉孤軍奮闘もイバナに敗れベスト4ならず

3月27日（金）

通称Tube（チューブ）と呼ばれるロンドンの地下鉄は、とてもわかり易く、経済的。

イギリスに来たからには、この地下鉄と名物の2階建のバスには、ぜひ乗ってみなくてはと街まで出かけることにする。

地下鉄は、アルファベットさえ読めれば、必ず目的地に着ける。乗り換えも、東京の営団地下鉄同様、色分けされた標示板に従って歩けばよい。

とても深い所を走り、軽く地下7階ぐらいはありそう。長いエスカレーターは、右一列に並んで立つ。左側は、急ぐ人が歩けるようにあけておくのだそうだ。

かまぼこの様な形をした車両はとても小さく、天井まで2mほどしかない。タバコが吸える車両と禁煙車があり、喫煙車の床は吸いがらでいっぱい。日本の方が数段清潔。

さて、これに乗り、かの有名な高級品店街、リージェントストリート、ボンドストリートを歩いてみた。もちろんただ歩いたというだけだ。

夕方6時から始まった試合は、各ベスト4をすべて決めた。

男子シングルスは、ベスト8に5人（リム・スイ・キン、ハ

米倉もベスト４はならず



ディヤント、ルイス・ポンゴ、ダニー・サルティカ、そしてハルトノ）を送り込んだインドネシアは、やはりさすが。明日の準決勝に駒を進めたのは、リム・スイ・キンとハルトノ。残る2人は、ハディヤントを破ったハンセンと、ルイス・ポンゴを破ったプラカシュ。文字通り、世界4強が顔をそろえたわけだ。

女子シングルスは、唯一ベスト8に食い込んだ米倉だったが、イバナ・リー・イン・ホーの前に準決勝進出ならず。

女子ダブルスは、徳田・米倉は、ミスの多いテレシャ・ダマヤンティを相手に、実力の差を見せつけた。近藤・高田は、ペリー・ウェブスターの前に涙をのんだ。

徳田・米倉組、ついに無冠。ハルトノにも衰え。

3月28日（土）

女子ダブルス準決勝。大番狂わせが起こった。デンマークオープンでの対戦では、一方的に勝負を決めた徳田・米倉が、イギリスのギルクス・キルビントンに破れたのだ。

1ゲーム目、出足より常にリードを許し、苦しいゲーム展開を強いられた徳田組は、終盤に追い上げ、追いついたセッティングでは、勢いに乗ったままこれを先取。

しかし2ゲーム目に入り、イギリスペアは、長身と腕の長さにものを言わせ、高い打点からのスマッシュで猛反撃。

日本ペアも、打たれれば勝ち目のないことは、百も承知のはず。しかし一度火のついてしまった導火線を、消すすべもないまま、相手の攻撃を受けるばかり。

ファイナルゲームは、1ゲーム目の繰り返し。前半から一方的にリードされ、その差を縮められぬままに10—14。しかしここから再び14—14とし、セッティング。

レシーブミスの多い米倉に、徳田が何やらささやいているのが見える。バックハンドでサービスをするキルビントンの手が小さく震えるのが見える。どれほどの重圧が彼女たちの上にのしかかっているのだろう。

1ゲーム目の再現はならず、その重圧をはねのけたのはイギリスペア。

反逆児ギルクスも、地元イギリスでの声援を浴び、燃えつきたといった感じだった。抱き合って喜ぶイギリスペアの脇を、無表情の徳田・米倉が横切る。

明と暗の差が、レンズを通しても伝わってくる。

日本チームにとって、今年は全英選手権に選手を送り込んで以来、最悪の成績となってしまった。2ヶ月後には、ユーバー杯をひかえ、その防衛が危ぶまれるが……。

男子シングルスは、リム・スイ・キン対ハンセン。スタートの遅いキムは、前半リードをゆるしたものの、後半はお得意のジャンプスマッシュと、ネット前への猛ダッシュでハンセンを翻弄。疲れの見えたハンセンに対し、たたみかけるように攻撃をしかけ、一気に勝負を決めた。

一方のハルトノ対プラカシュ。ファイナルゲームへともつれこんだ戦いは、デンマークオープンの再現。9回目の優勝に闘志を燃やしたハルトノも、終始マイペースのプラカシュに対し、その野望は実現せず。神様ハルトノも、そろそろ伝説の人となりつつあるのか。

黄、初挑戦で栄冠。底力でコーペンを圧倒する

3月29日（日）

ここ何年か〝女王〟の名をほしいままにしていたコーペンも、今年は何回か危ない橋を渡った。1回戦での近藤戦がそうだったし、昨日、準決勝でのベラワティ戦も、綱渡りだった。

ジャパンオープンで陣内に破れた時のと、同一人物とは思えないほど好調なベラワティに対し、ファイナルゲーム、6—0とリードされ、あわやと思わせたが、そこはさすがにコーペン。コントロール抜群のクリアーと、すきのないレシーブで挽回、健在ぶりを示した。

しかし、とうとうそのコーペンにも、捕まるときがきた。

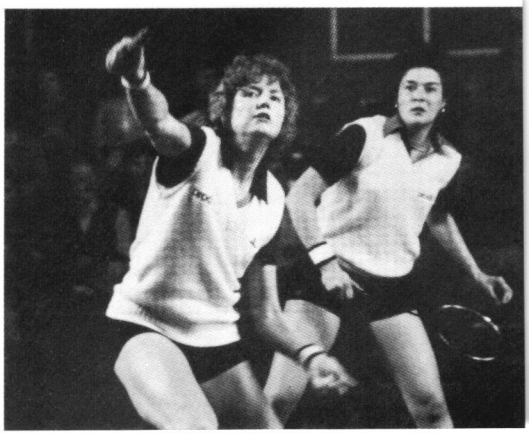
黄対コーペン。2人は、2年前、日本で行なわれたワールドカップ2で、一度顔を合わせている。その時は、2回戦、11—3、11—4でコーペンに軍配。当時、黄は17才。全盛期のコーペン相手に、無理もない結果だろう。

しかし2年の間の成長は、コーペンとの差を縮めたばかりでなく、追い越すまでになった。

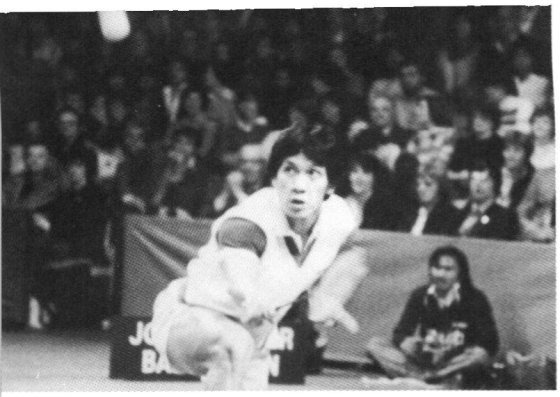
1ゲーム目、11—1、ラブオールプレーからゲームオーバーまで、黄の一方的な攻撃の前にコーペン手も足も出ず。何度かノータッチという場面も見られた。

2ゲーム目に入ってからも、ペースを崩すことなく、落ち着いた試合運びは、とても大学1年生とは思えない。10マッチポイントを握ってから、コーペンにサービスオーバー。普通なら、ここで何本かを相手にゆるすのが当たり前。しかし長いラリー

ギルクス・キルビトン組



リム・スイ・キン、2年ぶり3度目の王座に。



やはり王者〝リム・スイ・キン〟

今大会、一番の好取り組みは、やはり男子シングルス、リム・スイ・キン対プラカシュの一戦。リム・スイ・キンが、昨年の不名誉をくつがえすことができるか、はたまたプラカシュの防衛なるか。誰もがこの戦いを見逃すわけにはいかない、といった表情でコートを見つめている。

1ゲーム目、9—0までリム・スイ・キンが一気にリード。なんだ、実力の差ははっきりしてるじゃないかと思いきや、例の通り、ちょっとむづかしいことを考えているような表情をくずさないプラカシュは、マイペース。そしてじりじりと挽回。

決して無理な攻撃はしかけず、クリアーと、ていねいなレシーブで、教科書通りのシングルスを繰り広げる。

とうとう9—8まで追いついたプラカシュは、ここでの長いラリーも確実にものにする。ミスを連発したリム・スイ・キンは、前半思い切りよく打っていたスマッシュを、あまり見せなくなった。結局、15—11でプラカシュが1ゲームを先取。

2ゲーム目、1ゲーム目と同じく、リム・スイ・キンが一気に飛ばす。9—0、10—0、11—0、12—0、13—0。どんどん差は開く。

プラカシュは、リム・スイ・キンのジャッジミスなどに助けられた4ポイントを、わずかに取ったのみ。どうしてこの2人の試合は、こんなに極端なんだろう?

ファイナルゲーム、プラカシュにいつもにないミスが目立ちはじめる。リム・スイ・キン8—3でチェンジエンド。床を踏みならしたり、声援が飛んだり、会場中大騒ぎ。

「○○○○(何て言ってるのかわからない)プラカシュ!!」

「○○○○キム!!」

と、あちこちから声がかかる。

しかしそんな会場のざわめきとは無関係といった様子で、2人はゆっくりと歩き、コートを入れかわる。

その後もプラカシュにミスが続く。反対にリム・スイ・キンは、水を得た魚のように生き生きとした動き。ていねいに球をつなぎ、ここぞというときは、あの思い切りのよいジャンプスマッシュを放つ。この後の動きが、なんといっても超人的に速い。小柄な身体は、全身バネといった感じ。ふだんはおとなしそうな、めだたない、どちらかと言えば青白い顔も、この時だけは違う。

リム・スイ・キンのシャトルの速さに、プラカシュのラケットがまわり切らない。必死のレシーブも、わずかづつサイドアウト、バックアウト。

最後まで強気な攻めで押し通したリム・スイ・キンが、みごとに昨年の雪辱を果たし、王座を奪回。当然あるべきものが、あるべき所に戻った。

しかし、今後この王座を守り、ハルトノの記録に挑戦するのは、並みたいていのことではないだろう。今、世界の実力は、それほどひしめきあっているということだ。

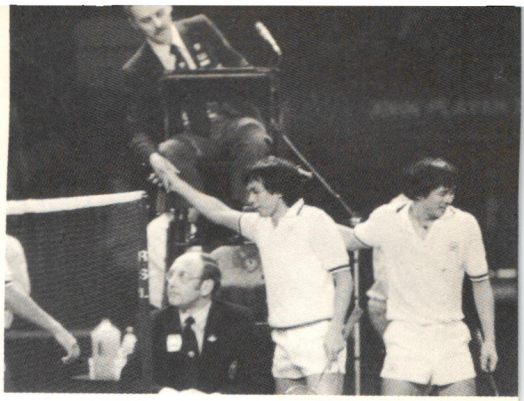
男子ダブルスは、ここ数年、不動の王座を守ってきた、チュンチュン・ワジュディが、後輩カルトノ・ハリアントにその座をゆずった。カルトノ・ハリアントは、準決勝で同じくインドネシアのクリスチャン・チャンドラを破っての決勝進出。チャンドラの出来からいって、それはやむを得ないとしても、まさかチュンチュン・ワジュディまでが敗れるとは、誰もが想像しないことだった。

準決勝でのチュンチュン・ワジュディは、このところ絶好調のキールストローム・カールソンと、好ゲームを展開。日本では決して見せてくれないような、人間業とは思えぬジャンプやシャトルさばきを披露。

1ゲーム目を先取し、2ゲーム目は、14—10と相手にゲームポイントを握られてからの逆転はみごたえがあった。キールス

チュンチュン・ワジュディ組の時代も過ぎたが





初栄冠のカルトノ・ハリヤント組

トロムたちの攻撃を完全に封じスマッシュを打つ機会をまったく与えない。

チュンチュンのミスに対してワジュディは神経質そうに顔を歪め、何やらささやく。それほど真剣な戦いぶりなのだ。

昨日のそんな2人から想像すると、今日の戦いぶりは、何ともちぐはぐな感じ。そろそろ、新旧交替の時期とみて、若いカルトノたちをチャンピオンの座にすえた、インドネシア協会の政略的なにおいがしないでもないが……。

しかしこれはあくまでも想像。この全英選手権において、決勝進出を果たすだけでも、それはもう十分に実力の証明なのだから。カルトノ・ハリアントは、若さにものを言わせた攻撃型のダブルス。そのたたみかけるようなスマッシュには、やはり他より光ったものがある。しかし今後の活躍が、この優勝を裏づけることになるだろう。（なんてちょっと皮肉かな？）

女子ダブルスは、イギリスペア同士の対戦とあって、地元の観客たちは大満足の様子。一つは、昨日徳田・米倉を破ったギルクス・キルビントン。もう一方は、韓国の高校生ペア金・柳を大差で破り、順当に決勝進出を果たしたペリー・ウェブスター。

出足、ウェブスターの動きが固く、ギルクス組がリード。しかし本来の調子を取り戻すと、ペリー組が一方的な試合運びで簡単に2ゲームを連取。

双方にミスが多く、あまり興味をひく内容ではなかったが、やはりここでもまたペリーの前衛のうまさが光った。ネット前でのカットは、このぐらいのプレーヤーになれば、誰でもそつなくこなすことは、こなす。しかしペリーの場合は、単にストップするというだけではなく、正確にシャトルを落とす。彼女のラケットは、正に〝蠅たたき〟さながら。飛んできたシャトルをみごとにピタンと相手のコートにたたきつける。

ミックスの決勝は、予想通りの対戦。イギリスのトレジェット・ペリー組対インドネシアのクリスチャン・イメルダ。

ベラワティと組むダブルスで不本意な成績に終わったイメルダは、このミックスにすべてをかける心意気。

1ゲーム目、インドネシアペアは、10本までリードしながら、逆転を許す。イメルダのやる気十分の気持ちが先走り、攻め急ぎのミスが目立つ。クリスチャンとのコンビネーションも、もう一つの感。

2ゲーム目は、追いつ追われつのシーソーゲーム。4人共ダブルスの大ベテラン。随所に見られるテクニシャンぶりは、さすが。

こうしてむかえたファイナルゲームは、8—1とイギリスペアリードでチェンジエンド。5—10、6—11、7—13と徐々に差はつまってゆくものの、13を取られ、さすがのインドネシアペアも窮地に追いつめられた。そしてそれに輪をかけるような、主審のコール。13—10でペリーのサービスを受けたクリスチャンに対し〝レシーブフォルト〟両手を広げ〝またか〟といった表情のクリスチャン。会場からも興ざめのため息が漏れる。

これでイギリスペアは14マッチポイント10。13と14では追う側にとっても追われる側にとっても、精神的に大違い。結局15—10でゲームオーバー。せっかくの見せ場を、主審につぶされたと言っても過言ではないだろう。

今回ばかりでなく、イギリスの主審のアンフェアな判定に泣いた選手は少なくない。しかし人間に機械のような正確さを要求するのも無理な話ではあるし、主審の判定をとやかく言う権利は、誰にもない。

ペリーは、デンマーク、スウェーデン、全英と、ダブルス、ミックス合わせて、6つのタイトルを制覇。つまり出場した種目には、すべて優勝したことになる。

何はともあれ、1ヶ月に及ぶヨーロッパ遠征は終わった。そして日本チームにとっては、無惨な成績が残った。

各国が次々とオープン化し、ライセンスプレーヤーが増えてゆく中、プロ意識を持った選手をアマチュアの選手の間に、勝負に対する気持ちの上で、何らかの差が出てくることを、責められないのではないか。今回の結果を見ても、選手たちの戦いぶりを見ても、決して日本が弱くなったわけではないのだ。それ以上に世界は強くなっているという事実を、今後私たちはどのように受けとめ、改善してゆけばよいのだろうか。



完璧だったトレジェット・ペリー組

3月30日（月）

各国の選手たちが、次々とホテルを引き上げ、帰国の途につく。日本チームは、この後パリを回り、4月3日帰国の予定。

小飼監督、池田コーチはじめ選手のみなさん、本当にごくろう様。今後の活躍を期待します。そしてこの遠征日記も今日でおしまい。読者のみなさん、最後までおつきあいくださり、どうもありがとう。

勝利へひた走る鮮烈のプロショップ

ラケットショップ元町®

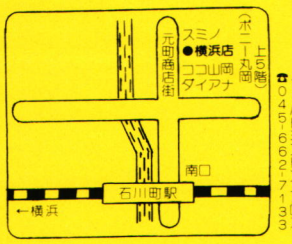
ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

とんで! まわって! コーチして!!

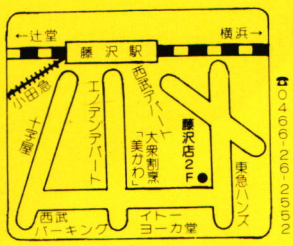
無料巡回コーチング・サービス



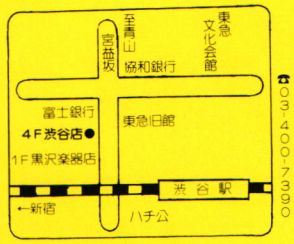
®



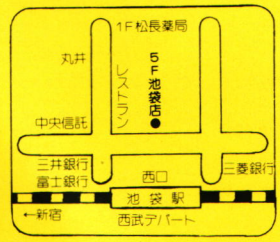
●横浜店
☎5F テニス・フロア 045-651-2020
☎4F バドミントン・フロア 045-662-7193



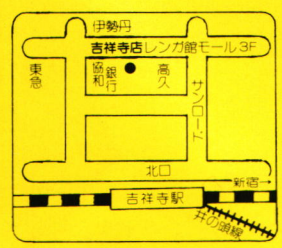
●藤沢店
☎0466-26-2552



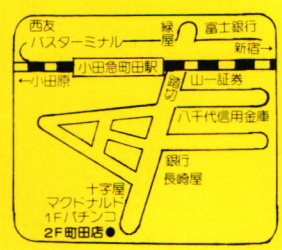
●渋谷店
☎03-3400-7390



●池袋店
☎03-988-0215



●吉祥寺店
☎0422-21-7890



●町田店
☎042-728-6050

カワサキラケット株式会社

バーバラ サットン（イングランド）
Barbara Sutton
ユーバー杯代表選手

世界をうならせる。







ベラワティ ウィハルジョ（インドネシア）

Verawati Wiharyo

1980年第2回世界選手権女子シングルス優勝
ユーバー杯代表選手

しなやかなパワーが



独特のグラファイトシャフトは、復元力を限りなく高め、スピードの限界に挑むプレーに適確に応えます。シャフトが強化されて、しかも軽さを徹底的に追求。カラーも鮮やかなRed, Green, Yellowの3色。今、エイトファイブは日本を越えて世界のトッププレーヤーの期待に応えます。

B-85

エイトファイブ

素材：グラファイトシャフト/高力アルミ合金フレーム　カラー：レッド/グリーン/イエロー（ケース付）　フレーム価格：9,500円

Nice Day with Racket

kawasaki

本　　社：〒130東京都墨田区両国1-10-6 TEL(03)633-7211(大代)
大阪支店：〒550大阪市西区阿波座1-10-6 TEL(06)533-0521(代表)

30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

創立30周年記念 4/1から8/31まで

ワイド・スケールで当たる

ビッグ・プレゼントが

ゴーセン Grand 30 キャンペーン



スポーツをリズムで満たせ。

ヘッドフォン型ラジオAM・FM

毎月300名さま

毎月3,000名さま

スポーツバッグ

オリジナル

ビッグプレゼント

ゴーセンは今、抽せんで毎月3,300名さまにステキなプレゼントが当たるビッグなキャンペーンを実施中です。ゴーセン商品についているシール1枚をキャンペーン参加店店頭の応募ハガキまたは官製ハガキに貼付し、郵便番号、住所、氏名、性別、年令、職業(学校名)、所属クラブ名、お買い上げ店名、住所を明記してご応募ください。お一人さま何口でも結構です。

〈抽選方法〉毎月末に抽選を行います。当選された皆さまにはご当選カードをお送りしますので、お買いあげ店にてカードと引き替えにプレゼントをお受けとりください。

〈送り先〉〒540-91 大阪東郵便局私書箱第459号
株式会社 **ゴーセン スポーツ用品部キャンペーン係**

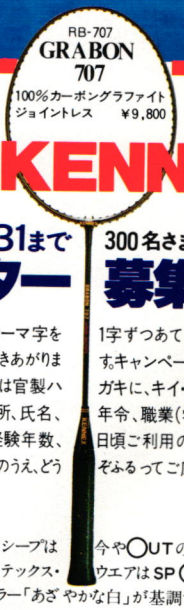


●くわしくは、ゴーセンスポーツ用品部、お近くのキャンペーン参加スポーツ店にお問合わせください。

ラケットスポーツで世界をむすぶ

GOSEN

本　　社	●	〒540	大阪市東区豊後町4	☎ (06)942-5816㈹
東京支店	●	〒111	東京都台東区蔵前4-14-2	☎ (03)862-6576㈹
福岡営業所	●	〒810	福岡市中央区薬院1-4-8	☎ (092)712-5247㈹
北陸営業所	●	〒921	石川県金沢市横川7-22	☎ (0762)47-0200㈹



PRO KENNEX
プロケネックス

8/31まで モニター

300名さまに 募集中!

①～③に正しいローマ字をのキイ・ワードができあがりまの応募ハガキまたは官製ハ名、郵便番号、住所、氏名、クラブ名、プレイ経験年数、店名、住所を明記のうえ、どう

1字ずつあてはめると、5文字すむキャンペーン参加店店頭ガキに、キイ・ワード、ラケット年令、職業(学校名)、所属日頃ご利用のスポーツ用品ぞふるってご応募ください。

〈問題〉

1. ゴーセンのハイ・シープは　今や○UTの代名詞です。
2. ゴーセンのウインテックス・　ウエアはSP○RT WEAR のベーシック・カラー「あざやかな白」が基調です。
3. ゴーセンのインターナショナル・ブランドといえば PROKENNEX RACK○Tです。

〈ヒント〉ゴーセンは皆さまにすぐれたGUT、SPORT WEAR、RACKETをおとどけするラケットスポーツの総合メーカーです。

〈キイ・ワード〉

① ② S ③ N

〈抽せん・発表〉毎月末に厳正な抽せんを行います。ご当選者には当選カードをお送りしますので、ご明記のスポーツ用品店にてカードと引き替えにモニターラケットをお受けとりください。

〈送り先〉〒540-91 大阪東郵便局私書箱 第459号
株式会社 **ゴーセン スポーツ用品部モニター・キャンペーン係**

第１回全国学童バドミントン大会(団体戦)申し込み要項

1. 主　　催	熊本日日新聞社、熊本バドミントンクラブ
2. 後　　援	河崎ラケット株式会社、ヨネックススポーツ株式会社、メトロレジャー株式会社、ゴーセン株式会社、熊本体育堂有限会社
3. 協　　賛	熊本県バドミントン協会、バドミントン界（赤星出版株式会社)、ベースボールマガジン株式会社
4. 主　　管	熊本バドミントンクラブ
5. 期　　日	昭和56年12月27日（日）午前９時
6. 会　　場	熊本市体育館（熊本市水前寺公園12・ＴＥＬ０９６３－８１－８９３１）
7. 参加資格	1．小学校学令の児童、2．保護者の同意を得た児童でスポーツ傷害保険加入者
8. 種　　目	クラブ対抗による団体戦（男・女）
9. 競技規則	現行日本バドミントン協会競技規則及び大会運営規定による。
10. 競技方法	1，トーナメント法による、2．試合は複１単２の対抗戦とし複より始める（同一選手が単複を兼ねることは出来ない）
11. 団体編成	団体編成は監督１名、コーチ１名、選手４名から６名とし、クラブ単位を原則とするが、選抜編成も認める。
12. 使用シャトル	日本バドミントン協会検定合格球合成シャトル
13. 参加料	一チーム6000円
14. 参加申込	所定の様式で下記あて昭和56年10月30日まで、書留にて郵送する。 〒862 熊本市神水１丁目１番１号　熊本市立砂取小学校　芦原健身氏あて ＴＥＬ０９６３－８２－７０３３　※予備参加申込は４月30日まで
15. 表　　彰	1.三位まで、熊本日日新聞社より賞状及びメダル授与、2.優勝チームには熊本日日新聞社より優勝旗（持ち回り）を授与、3.優勝チームには後援メーカーよりトロフィー・レプリカを授与する。
16. 代表者会議	昭和56年12月26日（土）午後14時　熊本市立砂取小学校にて行う。
17. そ の 他	1.上衣の背面には必ずクラブ名・選手名のマークをつける。マークの大きさは縦15cm、横30cmとする。2.競技中における疾病・傷害は保護者責任・負担とする。

男　子	団体の部
女　子	

第１回全国学童 バドミントン競技大会
参　加　申　込　書

県　　名

ふりがな		ふりがな	
クラブ名		監　督　名	
所　在　地	〒(　　－　　)　TEL	コ　ー　チ	
		マネージャー	

	ふりがな 選　手　名	学　年	年　年　月　日 (例Ｓ36.5.10)	登録録　番　号	保護者承諾印
1			Ｓ　・　・		
2			Ｓ　・　・		
3			Ｓ　・　・		
4			Ｓ　・　・		
5			Ｓ　・　・		
6			Ｓ　・　・		

上記の者は本クラブ選手で、標記大会に出場することを認め、参加申込みをいたします。

昭和　　年　　月　　日

クラブ会長　　㊞

第１回学童バドミントン大会会長殿

チャンピオンをめざせ！



銭谷欽治

世界はオープン化の一途。少年が飛び込む夢作りと、打ち込める環境作りが先決問題だ!!

はじめに、今月のテーマ〝ヘアピン〟について述べる前に、帰国したばかりということでもあり、一ヶ月もの間にわたってじかに接した〝世界の現状〟についてお話ししたい。

はっきりいって、目の色が違ってきている。

世界には、すでにプロ化の波が大きく打ち寄せている。

これは紛れもない事実なのだ。

アマチュアリズムを守ることは、ある意味では尊いことに違いない。

しかし、現状のままでは日本の男子、いや男子だけではない、女子にとってもお先まっ暗といわざるを得ないような、悲観的な材料が揃っているのだ。

お国がかえのインドネシアの各選手はもとより、インドのプラカシュ、ヨーロッパのトッププレーヤーは、今やラケット一本で飯を食っている。

ひと昔前までは、遊び半分のような雰囲気を持っていたヨーロッパ選手の豹変ぶりには驚かされるばかりだ。

ひと口にいえば〝真剣味〟。完全にプロ意識を持った目つきなのだ。

そのよい例が、イギリスのジョリー。

とても勝ち目がないと思われるリム・スイ・キンに対し、以前なら途中でサジを投げるところを、必死に粘って1本でも余計にポイントを挙げようと、それはものすごい形相だった。

私も、この迫力の前に、遂に8入りの夢を破られてしまった。

日本が、一挙にプロ化の方向へ飛躍できるとは、私も思っていない。

いろいろと、困難な問題が山積しているからだ。

しかし、それを承知で敢えて言いたい。

世界各国がプロ化を目指し、また中国が戦列に加盟しようとしている現在、このままではますます格差は開らく一方。

アマチュアリズムだけで対抗できる時代ではない。

われわれも、アマチュアリズムだけで抵抗するには年をとりすぎた。

せめて、次代を担うプレーヤーには、バドミントンに飛び込む夢と、バドミントンに打ち込む環境を作ってやりたい。

スピンをかけてネットインを狙う積極性が!!

そして、トッププレーヤーと底辺との繋がり。

下級者と中級者、中級者と上級者が一本の線で繋がってこそ〝夢のあるバドミントン界〟といえる。

少年にとって、**〝夢のあるスポーツ〟**であることが、メジャースポーツへの第一歩と思うのである。

さて、本題に入ることにしよう。

〝ヘアピン〟である。

ヘアピンは、数多いバドミントンのストロークの中でも、もっともシャトルの性質を利用した、バドミントンらしいストロークといえる。

いい古されているが、失速したシャトルが、ネットを伝うようにして相手コートに入る様は、いかにも優雅な印象を受けるものだ。

また、より攻撃的になった近代バドミントン、とくにシングルスではヘアピンは、**小細工などといってバカにできない、攻守の分かれ目となる重要なポイントなのである。**

まず、何はともあれヘアピンは〝**ネットインを狙え**〟。

セオリー通り、コーナーを狙うより、至近距離に落とすようにすること。

ヘアピンで、律義にコーナーを狙うほど愚かなことはない。

コーナーを狙っても、ミスをする確率は高くなるだけで、たとえギリギリに入ったとしても、自分の意図ほど相手にはダメージを与えていない場合が多い。

〝ネットインを狙う〟のも、今や**スピンをかけなければ通用しない。**

〝スピンをかけてネットインを狙う〟積極果敢な気持が必要。

スピンをかける打ち方としては、フラット（直角）にシャトルとラケット面を当てないこと。

やや斜めにシャトルの側面をホールディングするような気持で、運ぶように当てる。

シャトルを、長い時間ラケット面に保つようにするのだ。

ここで注意しなければならないのは、ストレートに来たドロップ、ヘアピンに対してヘアピンで返球する場合に限り、シャトルに斜めにラケット面を当てるよう心がける。

クロスに来たものに対しては、これはシャトルそのものが斜めになって飛んでくるので、あまりそのことにこだわる必要はない。

そして、スピンをかけるのは、**ネットに近い位置**でシャトルをとらえた場合、ということを頭に叩き込んでおいて欲しい。

なまじ中途半ばな距離からスピンをかけることは、その威力が半減するばかりか、ミスが倍増してしまう原因になる。

スピンをかけるのは、自分が明らかに攻撃できる体勢にあること、ネット際近くでシャトルをとらえたとき、である。

くどいようだが、その際には極端にいえば、**コートの中央を狙って構わない。**

コートの中央にヘアピンを落とすことは、その返球（クリアー）に対しても、**対処しやすい**ということにも繋がる。

以上のことは、攻めのヘアピンであるが、守りのヘアピンもおろそかにすることはできない。

ネット競技である以上、ネット際の得手、不得手は想像以上のハンディキャップとなる。

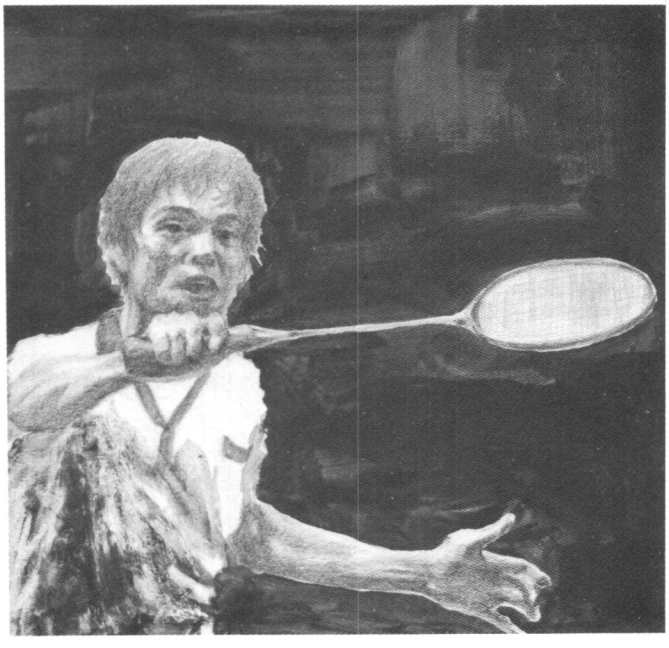
ヘアピンには、床すれすれでやっと返球する種類のものもある。

しかし、これもネットイン、もしくはそれに近いヘアピンを返せば、**一瞬にして体勢を逆転**することができるのだ。

このことを忘れてはいけない。体勢がどんなに追い込まれても、当てることさえできれば逆転は可能。

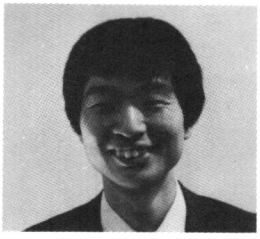
頭の中は常に冷静に、神経は一瞬でもラケットを離れないことが肝要だ。

体はつらくても、ラケットには丁寧な気持を交わせておくこと、ヘアピンひとつでどんな展開になるか分らないのだから。



（カット・長谷部憲和）

テクニックを盗め



ダブルス講座　飯野佳孝

ドライブ

打ちながら前へ詰めろ!!

今回は、ドライブとその打ち方（ラケットラーク）について説明したい。

ダブルスにおける、ドライブの占めるウェートは極めて大きい。

ドライブが通れば、主導権を握ったも同然である。ドライブの打ち合いに勝つことは、攻撃する側に立つか、守勢に回るかの分岐点になるといっても過言ではない。

では、どうすればドライブの打ち合いに勝つことができるか——。

まず、相手を上回るスピードがあることが第一。

そして、相手の動きを一瞬でも遅らせることができるか、つまり予測させない打ち方をすること。

第一のスピードであるが、これは単に打球の速さだけで優劣がついてしまうことは少ない。

よほど実力差に開きがない限り、打球の速さだけで優位にラリーを運ぶことはできない。

ある一定のスピードのものを、より速く見せる工夫が必要になってくる。

単刀直入にいうと、ドライブは止まって打ってはいけない。かならず、前へ詰めながら、前へ出ながら打つこと。

ダブルスの考え方としては、2人が前へ出て攻めることが理想。

たとえば、ドライブの応酬になって2人が前へ出た場合、奥深く返球されても走り込んで打つことができる。

この理論から、2人が前へ詰めて行くのがダブルスの理想。

とくに、クロスのドライブを打つ場合は、スピードのある返球はほとんど不可能であるから、思い切って前へ出ながら打つべきだ。

前へ出ながら打つということは、**図のように、実際に打った地点より、前で打つことと同じ意義がある。**

また、ネット際への返球を、自らがアタックできるという利点もある。

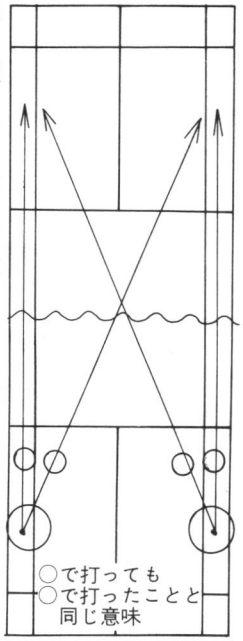
逆の立場からいうなら、ドライブにはドライブで返せということ。ドライブをネット際へ返球するということは、相手の餌食になるようなものだ。

上級者になればなるほど、ドライブを打ってネット際へ逃げる返球に対しヤマを張って、チャンスボールにしようと考えている。

ストレートの場合も、同様に前へ詰めながら打つことと、打ち方としては、**より一層大きく振り抜くこと**がポイントだ。

ラケットを振り抜くことは、コースを読み難くさせるフェイントモーションの役目を果たす。**と同時に、またシャトルのスピード感覚を相手に読ませないことにもなる。**

この場合も、逆の立場は絶対



打ち方は〝ワイパーショット〟に限る!!

にネットへ逃げてはならない。

ドライブの打ち合いは、クロス、ストレートにかかわらずドライブで対抗しなければいけない。

こうして、前へ出ながら打つことの上に、打ち方にひと工夫加えることによって、より大きな効果を生むことができる。

では、その打ち方＝ラケットワーク＝とは、名付けて〝**ワイパーショット**〟。

この〝ワイパーショット〟をマスターすることにより、ドライブはもとより、ネット際でのプッシュにも応用することができる。

ドライブ、プッシュに共通していえることは、浮いてはいけない、球足を短く、コースを読み難くするということ。

これらを、ワイパーショットは見事に補ってくれる。

打ち方は、名前通り自動車のワイパーのように、ラケット面を横に擦るように動かして打つ。

この〝ワイパーショット〟でフォアハンド・バックハンドともに打てるようになるのが理想といえる。

普通の打ち方で、プッシュ、ドライブを打つと、シャトルが浮いてしまうし、下手をするとバックバウンダリーラインをオーバーしてしまう場合が多い。またネット際では、タッチザネット、オーバーザネットのフォルトになることもある。

ワイパーショットは、この点をカバーして、角度をつけてフォルトを犯すことがないという利点の上に、コースが判り難いという最大の強味を持っている。

ドライブ、ラリー中のプッシュそしてサービスリターンのプッシュは〝ワイパーショット〟に限るのである。

ドライブは、基本的なかぶせて打つ打法と2種類を併用すると効果は大である。

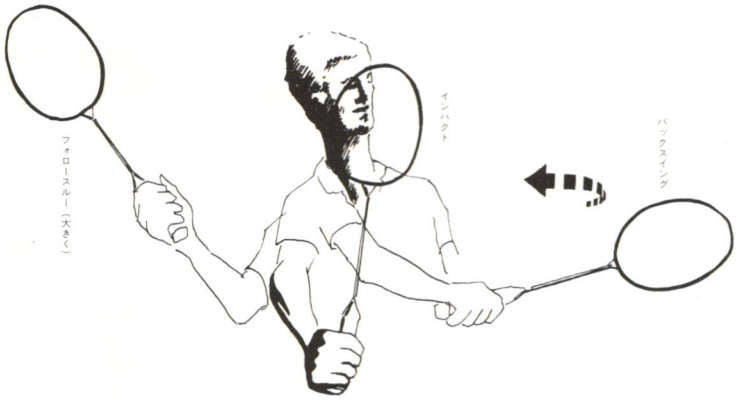
どちらも肝心なことは、フォロースルーを**大きく振り抜く**ことである。

何故なら、振り抜くことはスウィートスポットを外れてインパクトした場合でも、相手コートに入る確率が高くなるからだ。

この〝ワイパーショット〟で打つことが、フェイトモーションとなって、相手の動きを一瞬遅くし、ドライブの応酬に打ち勝つ秘訣である。

（カット・長谷部憲和）





昭和55年度全国高等学校選抜バドミントン選手権大会

男女とも激戦、比叡山(男子)、高岡女子がチーム一丸の勝利

昭和55年度の最後を締めくくる〝春の高校選抜〟が、3月28・29日の両日、大津市で開催されました。

団体戦は、粒揃いのメンバーを擁しチーム一丸となった、男子・比叡山、女子・高岡女子が大接戦を勝ち抜いて優勝に輝きました。

男子個人戦は、ヨーロッパのジュニア大会へ遠征した山梨日川の松野が、単複ともに危なげない戦いぶりで二冠を制し、女子では、準決勝、決勝と壮烈な激戦を演じた平間（小山城南）がシングルスに、伝統のダブルスに強味を発揮した山内・石崎組が新潟青陵がダブルスに勝ち名のりをあげました。

とくに、女子は高レベルの試合が展開され、全英オープン出場のためこの大会に出場できなかった陣内を加えると、夏のインターハイの行方はますます混沌として、予断を許さないものになりそうです。

◇男子団体

▼1回戦

市立一条（奈良）	2	0	境港工業（鳥取）
弘前実業（青森）	2	0	高松商業（香川）

▼2回戦

市立一条（奈良）	2	1	九州学院（熊本）
金沢市立工（石川）	2	1	日川（山梨）
伊勢工業（三重）	2	0	札幌第一（北海道）
比叡山（滋賀）	2	1	弘前実業（青森）

▼準決勝

金沢市立工	2	0	一条
羽田 山尾	2		菊地 中谷	1
15 15 6 10 11 15			15 10 15 17 15 9
片岡 辻田	2		梅津 中西	1
比叡山	2	0	伊勢工業
村松	2		本松	0
15 15 0 4			18 10 15 17 15 9

▼決勝

比叡山	2	1	金沢市立工
前川 西川	2		宮本 羽田	1
15 14 18 8 18 14			17 8 17 15 15 15
杉本	0		村松	2
3 9 15 15			片岡 辻田	2

（比叡山は4年ぶり2度目）

▼三位決定戦

伊勢工業	2	1	一条
梅津 中西	2		中谷 山口	1
17 15 15 14 8 18			前川 森本	2
堀内 東	2		菊池 森本	0
15 6 15 5 15 11			12 8 15 15
高木 松本	0		菊池 森本	2

◇女子団体

▼1回戦

比叡山（滋賀）	2	1	砂川南（北海道）
弘前聖愛（青森）	2	1	土佐女子（高知）

▼2回戦

熊本中央女（熊本）	2	1	比叡山（滋賀）
高岡女子（富山）	2	0	山陽女子（岡山）
小山城南（栃木）	2	0	岐阜女子商（岐阜）
四条畷学園（大阪）	2	0	弘前聖愛（青森）

▼準決勝

高岡女子	2	0	熊本中央女
原田 田向	2		井村 畑野	1
15 13 15 5 15 7			11 11 4 3
大谷	2		元田	0
四条畷学園	2	0	小山城南
新木	2		猪瀬	0
15 15 2 4			2 2

▼三位決定戦

熊本中央女	2	1	小山城南
高峯 宮本	2		三沢 鈴木	0
15 15 11 12			松田 平間	2
井村 畑野	2		平間	1
15 15 6 1			12 11 2 9 1 11
猪瀬 伊藤	0		

▼決勝

高岡女子	2	1	四条畷学園
原田 田向	2		新木 押切	1
15 8 15 12 15 8			15 10 15 7 15 11
大谷	0		久世 石井	1
11 5 12 11			田向 伏喜	2

（高岡女子は初優勝）

男子・個人――単 複とも松野が圧倒。山梨に〝秋山二世〟

◇男子シングルス

▼1回戦
松本吉男（比叡山） 2―0 田坂祐二（西条農）
松岡誠（札幌一） 2―0 光原要（倉吉工）

▼2回戦
松野修二（日川） 2―0 杉本吉男（比叡山）
伊東幸男（九州学院） 2―0 梅津裕一（伊勢工）
村松博（金市工） 2―0 原田利雄（二ツ井）
松浦進二（草津） 2―0 松岡誠（札幌一）

▼準決勝
松野 2（15―7 15―6）0 伊東
松浦 2（15―8 15―4）0 村松

▼三位決定戦
村松 2（15―9 18―13）0 伊東

▼決勝
松野 2（15―12 15―10）0 松浦
（松野は初優勝）

◇男子ダブルス

▼1回戦
児嶋智 児嶋浩（新宮） 2―0 溝渕樹 奥村恭明（土佐）
前田忠則 斉藤郁（足羽） 2―0 島田健司 吉弘健二（札幌一）

▼2回戦
松野修二 宮健次（日川） 2―0 児嶋智 児嶋浩（新宮）
佐々木朝幸 葛西孝輝（東奥義塾） 2―0 中西勤 松岡誠（伊勢工）
片岡泰 辻田泰昌（比叡山） 2―0 池渕順一 船越賢一郎（境港工）

▼準決勝
松野 2（15―7 15―3）0 佐々木 葛西
片岡 辻田 2（15―8 11―15 15―12）1 前田 斉藤

▼決勝
松野 宮 2（15―5 15―4）0 片岡 辻田
（松野・宮組は初優勝）

▼三位決定戦
佐々木 葛西 2（15―12 9―15 15―6）1 前田 斉藤

◇女子ダブルス

▼1回戦
山内佳子 佃貴子 2―0 光崎裕子 佐藤真理子（高松中央）
平山美恵子 葛宮由美 2―1 竹原桂子 村美紀子（山陽女）

▼2回戦
井村由美 高峯尚子（熊本中女） 2―0 山内桂子 佃貴子（高松中央）
新木千織 松田太嘉子（四条畷） 2―0 小池かおり 橋本真由美（千葉学園）
平間真由美 猪瀬美津枝（小山城南） 2―0 瀬川真由美 酒井祐理子（砂川南）
山内美子 石崎咲知子（新潟青陵） 2―0 平山美恵子 萬宮由美（比叡山）

▼準決勝
新木 松田 2（15―13 15―7）0 井村 高峯
山内 石崎 2（15―7 15―5）0 平間 猪瀬

▼三位決定戦
井村 高峯 2（15―9 15―10）0 平間 猪瀬

▼決勝
山内 石崎 2（15―3 15―10）0 新木 松田
（山内・石崎組は初優勝）

女子・個人――単は平間が混戦に断。複は山内・石崎組

◇女子シングルス

▼1回戦
竹原桂子（山陽女） 2―0 高橋真奈美（砂川南）
平山美恵子（比叡山） 2―0 田中美千代（岐阜商）

▼2回戦
竹原桂子（山陽女） 2―0 佐名美幸（昭和女）
山内佳子（高松中央） 2―0 松田太嘉子（四条畷）
小池かおり（千葉学園） 2―1 田向和子（高岡女子）
平間真由美（小山城南） 2―0 平山美恵子（比叡山）

▼準決勝
山内 2（11―0 11―6）0 竹原
平間 2（12―10 8―11 11―2）1 小池

▼三位決定戦
竹原 2（11―2 11―3 6―11）1 小池

▼決勝
平間 2（11―9 11―8 8―11）1 山内
（平間は初優勝）

産声あげる新連盟

愛知県についで神奈川県にも社会人バドミントン連盟がスタート!!



神奈川県社会人バドミントン連盟が設立され、第1回の公式戦である、昭和56年春季クラブリーグ戦が、4月12日、厚木市県央区体育センターで開かれました。

社会人連盟などと、ちょっと聞くとどこにでもありそうな呼び名なのですが、全国どこを捜しても、この名で活動をしているのは、愛知県と今度の神奈川県の2つだけなのです。

では何故このような組織が必要だったのでしょう。

県内のバドミントン愛好者は、年々増加してゆきます。そんな中で、実業団、高体連、中体連、学連、教職員、家庭婦人などの各連盟に加盟していない社会人の数は、思いのほか多いものなのです。

たとえば、講習会出身者、過去の経験者（高校、大学のOBOG）勤労青少年などなど。

彼らは、クラブ内の活動、クラブ同士の交流の他は、団体として公式戦に出場する機会に恵まれることがありませんでした。

そこで、下記のように、県協会の協力のもと、社会人バドミントン連盟設立への動きが起こったのです。

まず昨年6月、有志数名による、第1回の準備会が開かれました。その後、何回もの検討が重ねられ、県内にある数多くのクラブ、団体に呼びかけ、協賛を得ることができました。

2月の創立記念大会には、17チームが参加、会長に菊地利明氏を迎えて、スタートを切りました。

この成績から1部6チームの3部に分け、競技形式は、男女合同のクラブ対抗リーグ戦。男子複2、単2、女子複1、単1、混合1の合計7試合。この形式も、大変おもしろく、社会人連盟の特長がよく表われ、地域のクラブでの活動がうまく生かされそう。

リーグ戦の結果、1、2位チームが自動的に、上位ブロックの5、6位と入れ替わることになっており、今後新加盟のチームは、4部リーグからスタートすることになります。

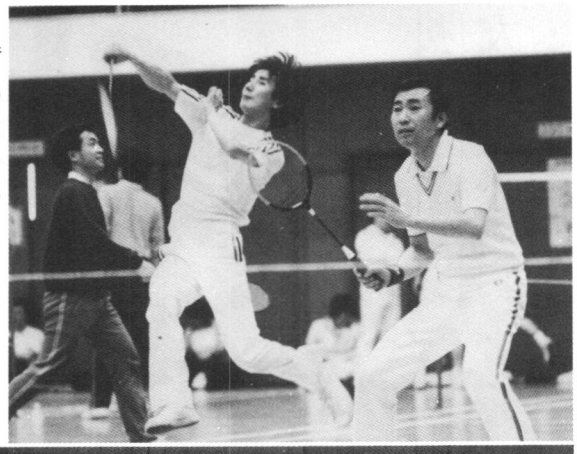
もう一つ、この連盟の大きな特長として、役員の方々がみなひな壇に飾った名誉職ではなく、全員が現役。各クラブのポイントゲッター的存在（？）であるということです。

この新しい形式の連盟が、今後、どのように成長してゆくか、注目したいと思います。

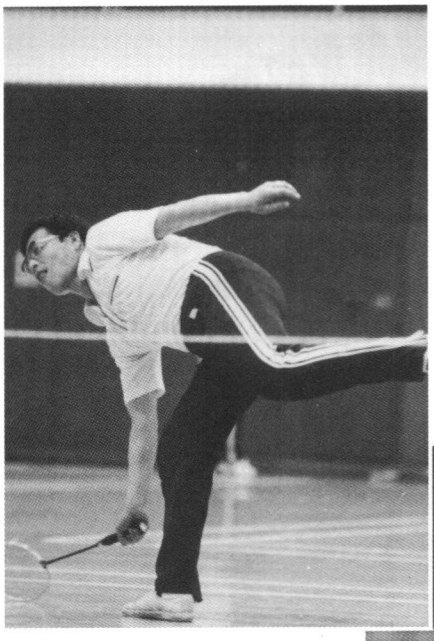
なお、くわしくは、県社会人バドミントン連盟の事務所までお問い合わせください。

〒231横浜市中区元町5—203ラケットショップ元町

☎045・651・2020



昔とったなんとやら?



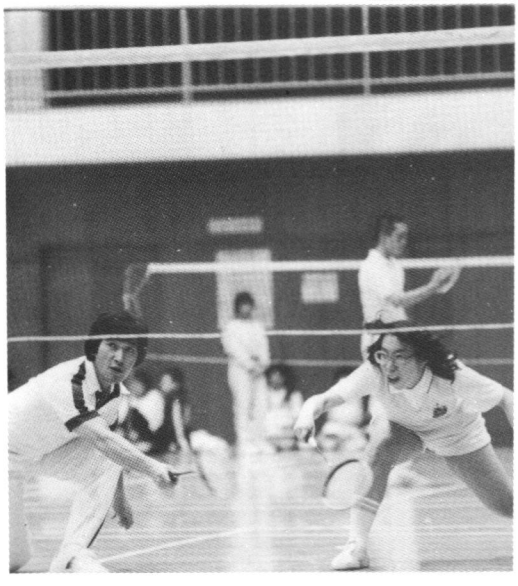
おっとっとっと



こりゃー楽しいや!!



若返るなあ~



この気力が大切なのです

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

7月にカリフォルニアでワールドゲーム開催

きたる7月25日から28日まで、世界的ビッグ・イベントである〝ワールド・ゲーム〟が開かれる。

バドミントン競技の会場はカリフォルニア州サン・ホセにあるシビック・オーディトリアムに決まった。

詳細については、さらに検討中であるが、各種目の既要は次のように発表されている。

⊙男子シングルス

8名の招待選手と、2名の予選通過選手の合計10名で争われる。予選には最大16名が出場することになろう。

▼招待選手

①ルディ・ハルトノ②リム・スイ・キン（以上インドネシア）③モルテン・フロスト・ハンセン④フレミング・デルフス（以上デンマーク）⑤プラカシュ・パデュコーン（インド）⑥トーマス・キールストロム（スウェーデン）⑦レイ・スティブンス（イングランド）⑧ミズブン・シデク（マレーシア）

▼候補選手

①ケビン・ジョリー（イングランド）②リュース・ポンゴ（インドネシア）

⊙女子シングルス

7名の招待選手と、2名の予選通過選手によって争われ、予選形式等は男子シングルスと同様。

▼招待選手

①徳田敦子（日本）②ベラワティ・ウィハルジョ③イバナ・リー・イン・ホー（以上インドネシア）④ギリアン・ギルクス（イングランド）⑤ウェンディ・カーター（カナダ）⑥リーン・コーペン（デンマーク）⑦黄善愛（韓国）

▼候補選手

①米倉よし子（日本）②ジェーン・ウェブスター（イングランド）

⊙男女・混合ダブルス

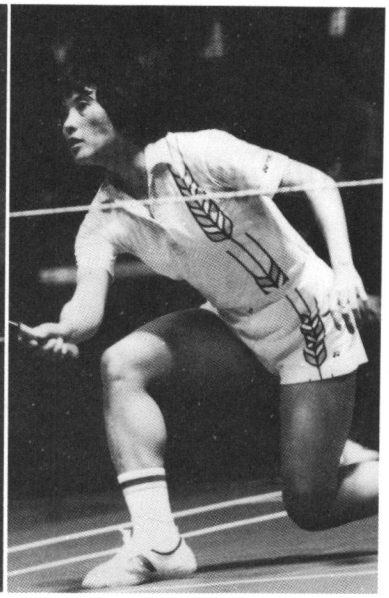
6～8組の招待ペアと、2組の予選通想ペアで争われ、予選には8組までが参加する。

▼男子ダブルス招待ペア

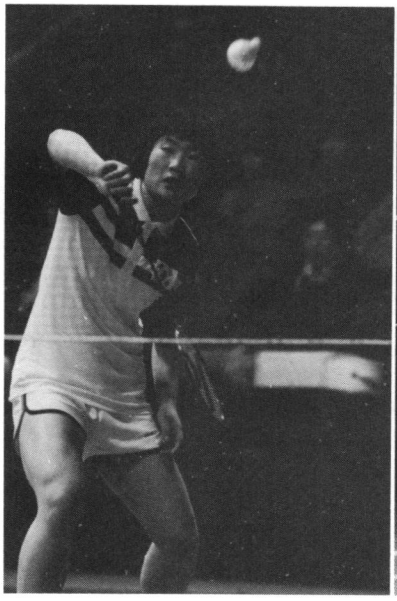
①チュンチュン、ヨハン・ワジユディ②クリスチャン・ハディナタ、アディ・チャンドラ（以上インドネシア）③レイ・スティブンス、マイク・トレジェット（イングランド）④フレミング・デルフス、ステーン・スコブガード（デンマーク）⑤トーマース・キールストロム、ステファン・カールソン（スウェーデン）⑥ラジフ・シデク、ジャライニ・シデク（マレーシア）

▼女子ダブルス招待ペア

①ノラ・ペリー、ジェーン・ウエブスター（イングランド）②イメルダ・ウィジョノ、ベラワティ・ウィハルジョ（インドネシア）③米倉よし子、徳田敦子④近藤小織、高田幹子（以上日本）



徳田敦子



黄　善　愛

▼混合ダブルス招待ペア
①クリスチャン・ハディナタ、イメルダ・ウィジョノ（インドネシア）②マイク・トレジェット、ノラ・ペリー（イングランド）③ステーン・スコブガード、リーン・コーペン（デンマーク）④ビリー・ジリランド、カレン・チャップマン（スコットランド、イングランド）

※大会は第9回ユーバー杯大会後となるため、女子選手の中には第一線を退く者もあり、このメンバーには、まだ変動が考えられる。



ペリー、ウェブスター

サービスジャッジに新しいジェスチュアを

バドミントン競技での、サービス・ジャッジの役割については、日本バドミントン協会審判委員会「審判員心得」の第27で次のように定めています。

「サービス・ジャッジはサーバーが、シャトルを打つ瞬間に、次の諸点を犯さぬかを確かめる責任がある。

(a) ラケット頭部のいかなる部分も、ラケットを持っている手のいかなる部分より上にしない。

(b) シャトルを自分の腰より上にしない。

(c) 両足ともサービス・コート内の床に静止の状態で着けている。

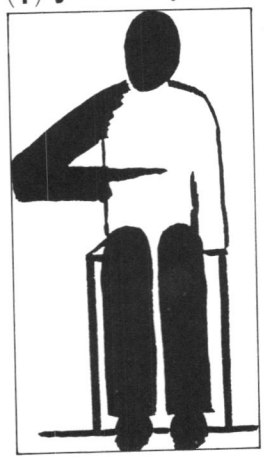
(d) 「欺瞞をしない。」

ところが現実にフォルトを発見した場合には、〝フォルト〟と宣告したうえで、プレーヤーに対して、〝○○○○のフォルトである〟というように説明しているのが現状です。

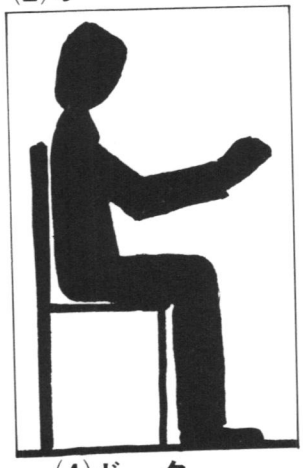
そこで、イングランド・バドミントン審判協会では、ラインズマンと同様に共通のゼスチュアを定めました。それが左図の4種類です。

読者の皆さんも試してみたらいかがでしょうか。

(1)オーバーウェスト



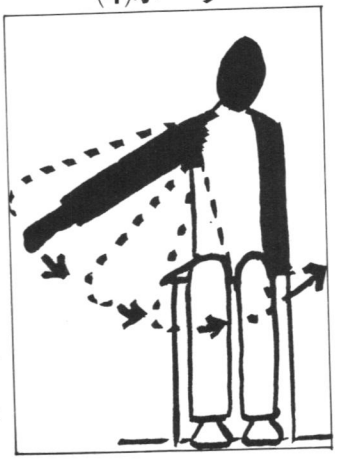
(2)オーバーハンド



(3)フットフォルト



(4)ボーク



(1)オーバーウェスト：サービスで，打たれる瞬間に，シャトルがサーバーのウェストより高かったとき（規則第14条第1項(I)）

(2)オーバーハンド：サービスで，シャトルが打たれる瞬間に，ラケットの頭部全体がそのラケットを持っているサーバーの手全体よりも下にあることがはっきりと見わけられるまでシャフトが下方をさしていなかったとき（規則第14条第1項(II)）

(3)フットフォルト：サービスで，打たれるまで，サーバーやレシーバーの両足が規定のサービスコート内にないとき（規則第14条第3項）

(4)ボーク：いったんサービスが始まってから，予備的な欺変をしたり，相手を意識的に惑わしたとき。また，どのプレーヤーでもサービスのとき，不公平な優位さをえようとして，シャトルをサーブすることをわざと遅らせたり，シャトルをレシーブするのをわざと遅らせたとき。（サーバーとレシーバーが，それぞれ定められたサーブとレシーブの位置をとってから，サーバーのラケットの最初の前への振り出しがサービスの始まり，このことはその後も続けなくてはならない）（規則第14条第4項）

バドミントンを楽しく

メディカルアドバイス

四谷健一郎

汗をながそう

「ずいぶん黒くなったなァ」
「うん、ハワイで、ちょっと泳いできたんだ」

皮ふを黒くする犯人は、太陽からの紫外線だが、この紫外線は人間の体内でビタミンDをつくりだす。

皮ふが黒くなるというこの現象、強い紫外線を吸収してさえぎり、がん発生をおさえる体の防衛反応なのです。事実、熱帯地方では、紫外線が強いのに黒人には皮ふがんが少ない。欧米より日ざしの強いオーストラリアにいる白人に最も皮ふがんが多いことでも、このことを証明している。

皮ふの目的はこれだけではない。汗を出すという働きがあるからだ。

皮ふには汗腺が

皮ふは、内と外の二つの層からなる。外から見ることのできる層が表皮で、この表皮の下にかくされている内層が真皮です。

真皮は生きた組織で、神経終末、血管、腺に富んでいる。この真皮のさらに下の層に皮下脂肪をもつ結合組織の層がある。

皮ふは、外気にふれているので放射面となって体温を調節する。しかし体温を発生する場所は皮ふそのものではない。肝臓、腎臓、心臓のようにはげしい動きをする内臓器官です。これらの器官で生じた熱は血液によって、体のすみずみまで平等につたえられる。こうして真皮につたえられた熱は、皮ふから放熱される。

このときの放熱量は、体温と外気温との差によってきまる。この差の少ないときは放熱はゆっくりとおこなわれ、差が大きいときには放熱は急速にすすむ。

気温が、体温よりわずかに低いような暑い日には、皮ふからの放熱はゆっくりとしており、真皮の中にある小動脈は弛緩して皮ふの中の血液量が多くなっている。つまり放熱さるべき熱が多量に皮ふに送りこまれているわけだ。

これに反し寒い日には真皮の小動脈は収縮し、皮ふに送られる血液量は少なく、放熱される熱も少なく放熱量も比例して少なくなる。

暑い、寒いというのは、人間が皮ふで感じる感覚で、この度合を数量的に表わすこともできる。これを体感温度という。

$$\text{体感温度} = t - 4\sqrt{v} + 12J$$

tは気温、vは風速、Jは地表面の受ける放射熱量

体感温度は、単に気温のみでなく、風や温度、日射などによっても左右される。気温の低いときには、とくに風の影響が強い。例えば、マイナス三〇度で風速が一六mの風が吹いたとす

汗の量はどのくらい

ると、体感温度はマイナス四六度となる。

$k=(\sqrt{100v}+10.45-v)(33-t)$

kは大気冷却値、vは風速、tは気温

この式で、例えばkの値が二〇〇〇を超えると外で生活することが危険とされる。南極などで仕事すると危険をともなうことが想像できる。ちなみに一九六〇年八月二四日、南極大陸ボストークではマイナス八八・三度を記録した。

暑いときには熱をなるべく早く体外に出さなければならないので、放熱だけでは体温の調節ができない。そのためには液体の蒸発がよい。

この液体では水の蒸発が、ほかの液体より一gあたりのエネルギーの消費が大きい。そして蒸発時のエネルギーの消費は、液体が接触している場所で行なわれる。

風呂からあがって、外にでて風にあたると特別に涼しく感じる。これは水分が蒸発して皮ふから熱が奪われるためである。一CCあたり〇・五八カロリーの熱が奪われる。

からだから水分を蒸発させる一つの方法は、速く呼吸して、口やのど、肺でしめらせた呼気を多量に排出させることである。

イヌは暑い日、口を大きくあけて舌をだらりと出して、ハーハーとせわしく息をしている。これである。

ヒトには、イヌにはない便利な装置がある。それが汗腺である。

汗の本来の機能は体温調節で、運動で熱の発生が高まると汗がでて、蒸発時の潜熱として熱を奪い体温の上昇を防ぐ。

冷や汗三斗、あぶら汗たらたら、手に汗をにぎる、汗水たらすなど汗に関する表現は多い。

ふつうヒトが日常流す汗は、体温に関しての汗つまり「温熱性発汗」である。運動時の汗がこれだ。

一方、ハラハラしたとき、恥かしいとき、極度に緊張したときにも汗がでる。これは「精神性発汗」だ。先生にしかられるな、と予感がするとき、宿題を忘れて下手なウソをついてバレタ時、試合の前なども汗をかくことはよく経験する。

汗腺は、屈曲した細い管でできており真皮の深部にある。導管は、比較的まっすぐ上行して表皮を貫いて皮ふの表面に口を開く。この開口を「汗孔」と呼び、その大きさは肉眼でどうにかみえる程度である。

温熱性発汗と精神性発汗とでは、汗のでる場所が異なる。

温熱性発汗はエクリン腺、精神性発汗はアポクリン腺だ。エクリン腺は全身の皮ふにあるが、アポクリン腺は、わきの下や乳首のまわり、外陰部だけにある。

エクリン腺は全身に三〇〇万個、手のひらに一番多く一平方センチ当り約三〇〇個ある。

背中や胸には汗腺が少ない。一平方センチ当り一〇〇個といったところ、オシリは一二〇個。

汗は一〇〇%近く水分で、その中に溶けている物質は〇・五%ほどである。この少量の物質は塩化ナトリウムすなわち食塩。塩のほかには無機物、アンモニアなどもある。

汗によって失われる食塩は、ごくわずかだが発汗がはげしく一時間に一～一・五リットルもの汗がでるようになると、からだから出る食塩の量は無視できない。

発汗によって水分が失われると、必ずノドがかわき、ときには痛みをともなって、けいれんをおこす人もいる。

多汗症という病気の人もいる肥満体の人、バセドウ病の人に多い。顔の片側だけ汗をかく人もいる、三〇〇人の一人といったところか。

人は、じっとしていても汗をかく。大人で一日七〇〇CC～九〇〇CC、睡眠中でもコップ二杯分。この失う水分のうち汗となって逃げる分が半分、呼吸で口から吐き出される量が残りの半分である。

一日のかく汗の量は三五〇CC、一時間に約一四CC、一分間に〇・二CC。

発汗量は気温が上ったり、運動すれば多くなる。運動時の最高は一時間に約二リットル。

夏二九度の室内で、じっとしていても一日三リットル発汗する。一時間に一二五CCだ。これが三二～三六度にあがると一時間に五〇〇CCとアップする。

人間とは「汗を出して体温を調節する動物」と定義できそうだ。

なぜ、人の体中に汗腺が発達したのか。ヒトは二本足で立ち、鼻が地面から遠ざかるにつれて嗅覚が衰え、それに関連したアポクリン腺が退化して、いまではワキの下や局部だけになってしまった。

逆に、炎天下で長時間狩りや畑仕事をつづけたことが、エクリン腺を全身に広がらせたという。

チンパンジーやゴリラなどの高等なサルでは、アポクリン腺よりエクリン腺のほうが多いが、そのエクリン腺はあまり活躍していない。

馬は全身に汗線が発達しているが、アポクリン腺だけだ。

大いにスポーツをやって汗を出すのがよい。だが汗がでると水分が蒸発したあと、皮ふの表面に尿と同じような有機物がのこる。これをそのままにしておくと不衛生。そこで肌着は汗と同時にこれらの有機物とぬぐい去るものでなければならないということになる。

（次回は運動神経の話です）

いものをダブ（dab, dabbing）と称し，中陣まで勢いよく飛ばす“ミニ・スマッシュ”的なものをプッシュといって区別する人も少くない。

Q

qualify クオリファイ。資格を得る（動詞）という意味で，スポーツでは，ふつう予選（preliminaries）等に勝って本戦とか決勝ラウンド出場の資格を得ること。

例 England qualified to the interzone, the final stage of the Uber Cup badminton, beating archenemy Denmark 5－4 in the finals of the European zone.（英国は宿敵デンマークを５－４で破り，欧州ゾーンに優勝して，ユーバー杯の最終ラウンドであるインターゾーン進出を決めた。）

クオリファイした人，またはチームはqualifier（クオリファイアー）という。

quarterfinals クォーターファイナルス。トーナメントにおける準々決勝のこと。語尾に“s”がついて複数形になっていることに注意。これはfinals（ファイナルス，決勝）semifinals（セミファイナルス，準決勝）なども同じ。もし“s”をつけないと，準々決勝の（決勝の，準決勝の）という形容詞になってしまう。決勝戦が１試合でも複数形になっているのはこのためである。

quarter（クオーター）は「４分の１」の意味。つまり，決勝から見て「４分の１決勝」（４試合やって４人の勝者が残る）ということ。semifinalのsemiは半分のことである。また，英語では準々決勝の前のラウンドをeigth final（８分の１決勝）その前をsixteenth final（16分の１決勝）などともいう。これだと，下から順に数えて何回戦なのかわからないが，選手がまだ何人残っているか（８分の１決勝は16人出て８人勝ち残る）がはっきりする。

R

racket ラケット。シャトルを打つ道具。racguetとも綴るが，これはフランス語のraguetteの影響。しかし，この語の語源はアラビア語で掌（てのひら）であるとされている。

おもしろいことに，バドミントン競技規則には，ラケットの規格，定義等がなく，それどころか「バドミントンはシャトルをラケットで打つ競技」というような定義（説明）もない。これは範をとったのが，テニスの競技規則であるためと思われる。「ラケット」の文字が最初に出てくるのは規則第９条（ダブルスプレー）第２項「『サービス』はサーバーのラケットでシャトルが打たれたとき完了したことになる……」の部分。

バドミントン・ラケットに規格はないが，サイズはほぼ68㎝（長さ）で統一されており，重量も合成フレームの発達により，100gそこそこと軽くなり，終戦直後とは比較にならぬほど変化（進歩）している。

ラケットの，糸（strings，ストリングス）を張って，シャトルを打つたのの部分をracket face（ラケットフェース，打面）といい，打面を囲む円形枠をframe（フレーム），打面とフレームをひっくるめた部分をracket head（ラケットヘッド，頭）という。

rally ラリー。ごく俗っぽくいえば“一連の打ち合い”で，バドミントンのほか，テニス，卓球，バレー，スカッシュのように，両サイドから交互に球（シャトル）を打ち合う競技で使われる言葉。球（シャトル）が往来すること自体がラリーだから，日本語でよくいう「ラリーの応酬」は“重箱読み”の感がある。

もう少し厳密にいえば，サーブに始まったインプレーの状態が，ポイント（エース），フォルト，レットなどのために終了するまでの連続した打ち合い，のことになる。

このほか，車の耐久レース（car rally），政治的，宗教的集会や示威運動などもラリー。動詞は，体力や気力を「盛り返す」精力を「集中する」意味に使われる。

ranking ランキング。rank（ランク，等級＝上下関係が階層状に固定化している状態）から出た言葉で，スポーツでは選手の力量を試合成績の結果などをもとに測って，序列をつけて並べた一覧表。世界的な規模のものから，全国を単位としたもの（全日本ランキングなど）種別（全国高校ランキングなど）のものなど，さまざまある。バドミントンの場合，何のランキングをどのようにして決めるかについては，日本バドミントン協会が，ランキング規定を制定している。

ランキングはふつう８位，10位，または16位ぐらいまで制定するのが普通であり，その種目のランキングに入った選手は，原則として翌年大会に出場資格があり，かつ，シードの対象にもなる。

ランキング・プレーヤー（ranking player）は，その種目のランキングに入った人のことだが，そのことから「有力選手」「一流選手」を意味する場合が多い。

（つづく）

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

P

post ポスト。 いうまでもなく「柱」だが，バドミントンやテニスではnet post（ネットポスト）すなわち，コートを二分するネットを，両側で支える支柱を意味する。バドミントン競技規則第２条によると「ポストはコート面から1.55mの高さで，規則第３条のネットをしっかりと張れる丈夫さで，側方の境界線の上に立てる。」となっていて，サイドライン上でのネットとポストの高さは同じであることがわかる。規則にいう「側方の境界線」は，具体的にはダブルス・サイドラインのこと。

ポストには，柱のほか①職場などでの地位②持ち場，駐屯部隊③郵便箱（郵便物）④宿駅，などの意味がある。これは，原義がラテン語で“fixed place”（決められた，動かない場所）に相当するため。むかし，郵便物は飛脚で運ばれ，宿場で集配された。

practice プラクティス。 practiseと綴るのは英国式。ふつう「練習(する)」と訳している。語源はギリシャ語の「する」(英語のdoに相当)で，一般には「習慣的，日常的に，繰り返して，継続的に行う(こと)」を指す。

スポーツなどで使われるときは“repeated performance or systematic exercise for the purpose of acquiring skill or proficiency.”（ランダムハウス英語大辞典)「技術の高さや奥行きをきわめるために，繰り返し行う動作とか系統だって行う練習」のことになる。

したがって，練習，というとなんでもpracticeと解釈するのは誤り。試合前，コートに入って行う数分間の練習などはwarm-up（ウォームアップ）というべきで，これは次の一文からもわかる。

“A Tournament Committee has discretion to decide the time allowed for a warm-up period prior to a match.”「試合開始に先き立つウォームアップ時間の決定は大会運営委員会に任される」(テニス競技規則より)

practiceの類語としてはexercise（エクササイズ）とかworkout（ワークアウト）がある。

☞ warm-up, workout

pro; professional プロ，プロフェッショナル。 今日ではproで立派に通用しているが，これはprofessionalの略語である。スポーツ界では①特定競技の技術を見せる（試合する）ことにより，ギャラや賞金を得て生活するもの。または②技術指導を行って，その報酬で生活するもの――に大別される。この区分けに従い，前者をtournament pr （トーナメント・プロ）後者のことをlesson pro（レッスン・プロ）ともいう。

バドミントンでは1979年から競技会がオープン化されて，賞金がかけられた大会が生まれた。この種の大会で賞金をもらうプレーヤー，すなわちプロのことを，ライセンスト・プレーヤー（licenced player）と呼ぶ。国際バドミントン連盟（IBF）から認可をもらったもの，という意味あいである。ちなみに，テニス界ではこの種のプロのことを単にプレーヤーといっている。

プロフェッショナルは，そのほか，知的職業の専門家（大学教授，弁護士，医者など），専門技術者，芸術家等をも指す。

push プッシュ。 一般には「押し出す」「押し込める」行為の総称。スポーツでもボール等を，そのような感じに打ったり，蹴ったりすることを指す。Webster's Sports Dictionaryは次のように定義している。

“To stroke a ball or shuttlecock (as in tennis, table tennis, or badminton) with a pushing motion and with the face of a racket or paddle held flat so that no spin is imparted.”「テニス，卓球，バドミントン等で，ボールまたはシャトルを押し出すようなモーションで，かつ，ラケットまたはパドルの打面をフラットに保ち，スピンがかからぬようにしてストロークすること」

また，関連してpush shot（プッシュ ショット）の項では“A shot in racket games in which the ball or shuttlecock is pushed rather than stroked.”「ラケット競技でのショットの１種。ボールまたはシャトルをストローク（この場合は“振り出す”ぐらいの意味）するというよりは，むしろ，押すように打つ」。

これでおわかりだと思うが，バドミントンでは前陣から，ネットテープより高い位置でとらえたシャトルを，下向きに，相手コートに打ち返す，比較的，飛距離の短い打球のことである。しかし，具体的な定義づけはむずかしく，英語では，ストップ（ほとんどラケットを振らないが，力を込めて，ネット近くに急角度で落す）に近

第1回全沖縄選抜

単は泉（男子）、真喜志（女子）

第1回全沖縄総合選抜バドミントン選手権大会が3月22日、中部商体育館で行なわれた。

男子シングルスは、泉、大山の争いとなり、両選手ともベテランらしく速い動きから強烈なスマッシュの応酬でゲームは白熱化。勝負は1―1のまま最終ゲームにもつれこんだが、気力で優る泉が、セッティングで大山を振り切り栄冠を勝ち取った。

同ダブルスは、宮井・下地組が抜群のコンビネーションを見せ、2―1で大山・泉組に逆転勝ち。大山・泉組は第1ゲームをラッシュ攻勢で奪いながら、第2ゲーム以降にミスが重なり涙を飲んだ。

女子シングルスは、真喜志―儀間の新鋭、ベテランの激突。真喜志は、第1ゲームから積極的な攻撃で押しまくり、守っても相手のスマッシュを果敢に拾いまくった。これに対し儀間はエンジンのかかりがおそく、攻守にいまひとつだった。

同ダブルスは、宮里・儀間組が終始相手のミスを誘うまいプレーで真喜志・中村組を圧倒、順当勝ちを収めた。

なお、この大会は高校、大学、社会人、教職員のベスト4、並びに総合選手権のベスト4を集めた〝実力沖縄一〟を決める大会でもあった。

62年沖縄国体へ向けて今後一層のレベルアップが望まれるところ。

▼男子シングルス準決勝

大山（県庁）2
泉 2
（15―2、15―3、16―18）1

下地（宮古OB）1
宇座（日野自）0
（15―2、15―6、3―15）2

▼同決勝

泉（経済連）2
大山（琉大）1
（18―16、12―15、15―2）2

▼女子シングルス準決勝

儀間（シェル）2
真喜志 2
（11―8、11―7、11―4）2

赤嶺（大同火災）0
宮里（琉商）1
（11―2、11―3）2

▼同決勝

儀間 2
真喜志 2
（15―3、15―1）2

宮里（琉大）1
中村（南部商）0
（11―2、9―12、11―2）2

（3月23日付、沖縄タイムス）

▼男子ダブルス準決勝

大山・泉 2―0中島・末次（県庁・経済連）（琉大）
宮井・下地 2―0宇座譜久島（沖信・宮高職）（日野自・琉大）

▼同決勝

宮地
下地 2
（10―15、15―6、15―3）1

大山
泉

▼女子ダブルス準決勝

宮里・儀間 2―0石川・山城（琉商・シェル）（石川高）
真喜志・中村 2―0永山・新垣（琉大）（南部商）

▼同決勝

宮里
儀間 2
（15―3、15―1）2

真喜志
中村 0

（3月23日付、沖縄タイムス）

◆1ヵ月ぶりで、やっと日本の土を踏むことができました。選手団と一緒にデンマーク、スウェーデン、イギリスと回ってきましたが、やはり日本が一番。ほっとする間もなく書き上げたヨーロッパ行状記、いかがでしょうか。日本選手のコートだけでは分らない一面、外国選手の迫力をお届けできれば幸いです。帰国してみれば、日本はすでに春。間もなく学生のリーグ戦が開幕します。またまたガンバラナクッチャー。

◆愛知県に続いて神奈川県にも社会人バドミントン連盟が誕生しました。全国各地でも愛好者が集まってできる大会をと、気運が高まっています。社会人からバドミントンを始めた人や、高齢者でも楽しめるこのような連盟、大会が増えることには大賛成。全国各地で誰でも楽しめる土壌が生まれそうです。

◆ユーバー杯が間近になりました。5月22・23日（東京）、23・24日（京都）、26・27日（名古屋）、30・31日（東京）。ぜひご観戦を。

バドミントン界　The Badminton World

1981年 4月号 ©1981　通巻第138号

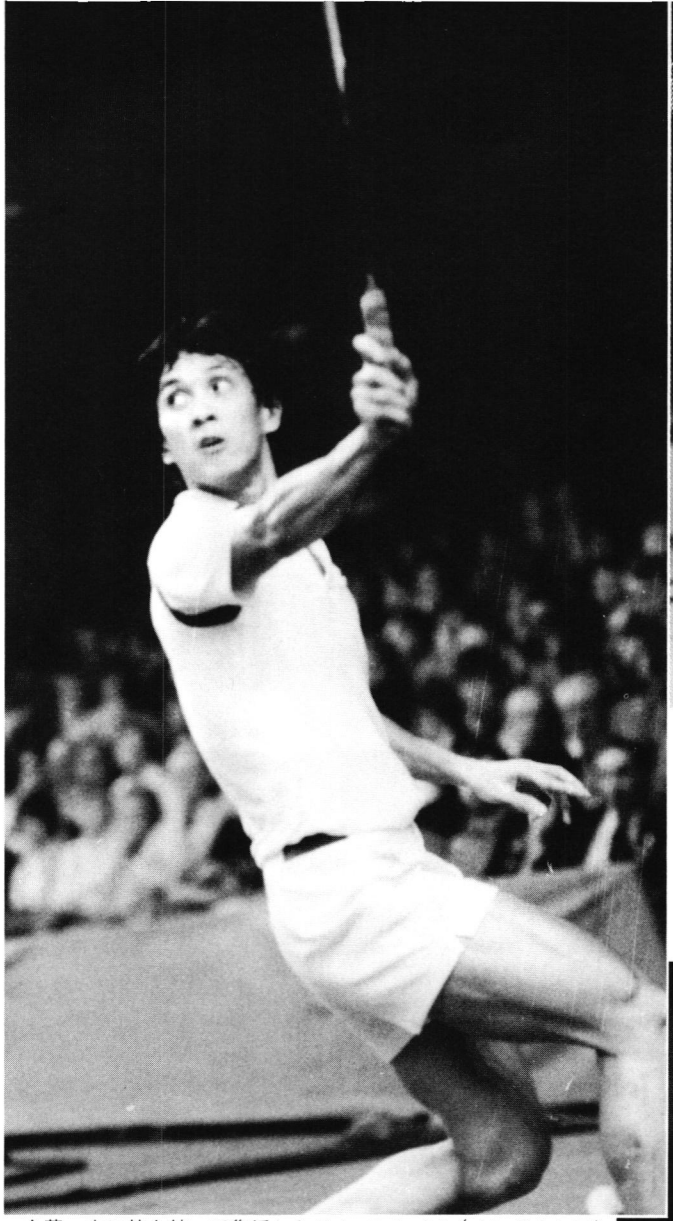
写真植字／サカキバラ写植，創研
印刷・製本／根岸印刷

定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円（送料共）
振替＝東京8－10737

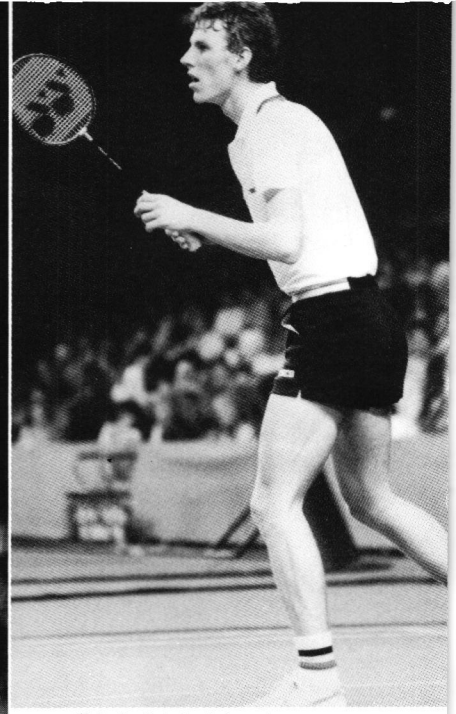
昭和56年4月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952

◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

デンマーク・スウェーデン・全英オープン写真集

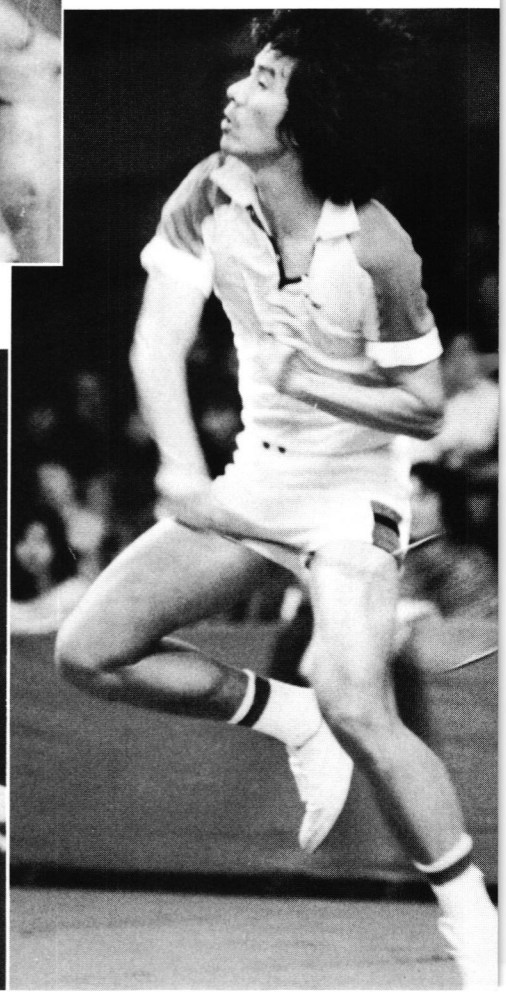


全英一本に的を絞って復活したリム・スイ・キン(インドネシア)

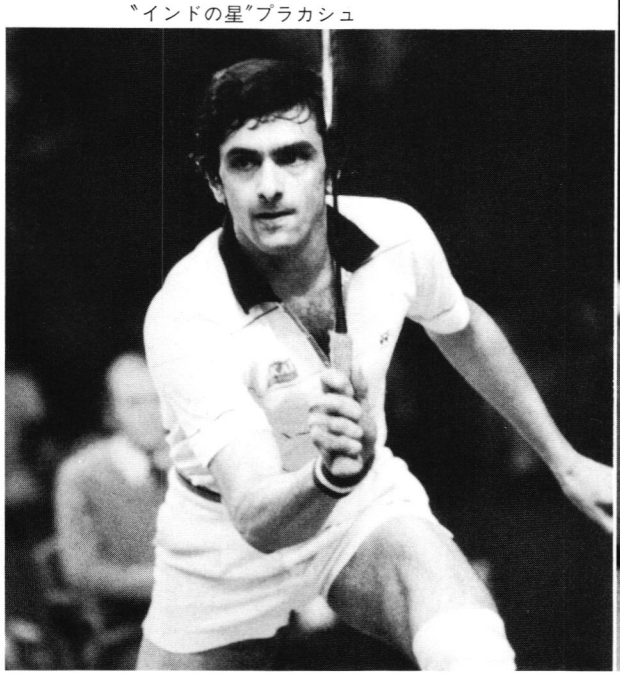


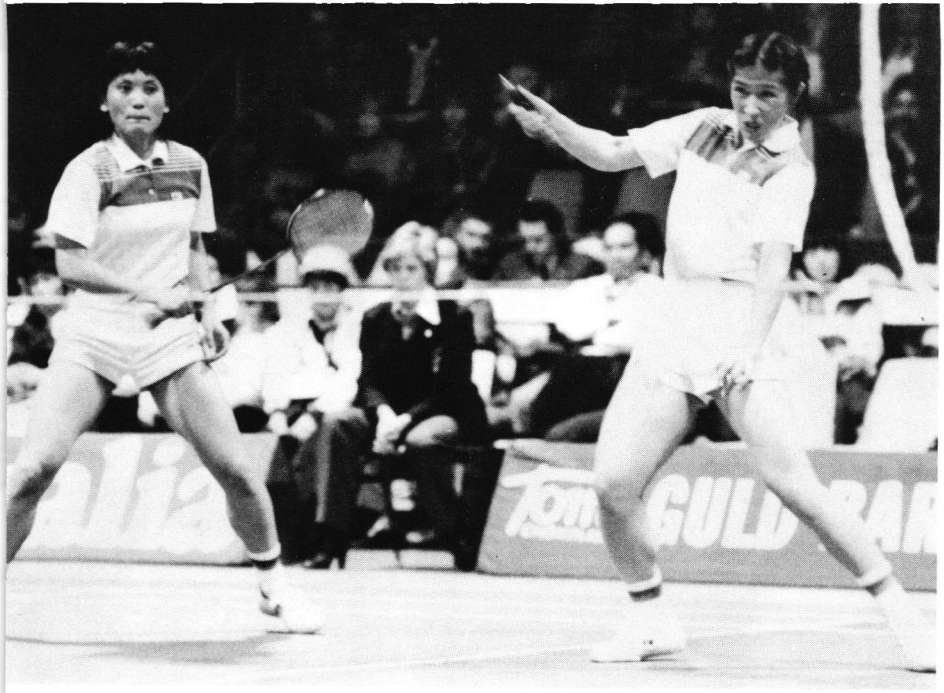
一段とたくましくなった
ハンセン（デンマーク）

体力的に苦しかった(？)
ハルトノ（インドネシア）



〝インドの星〟プラカシュ

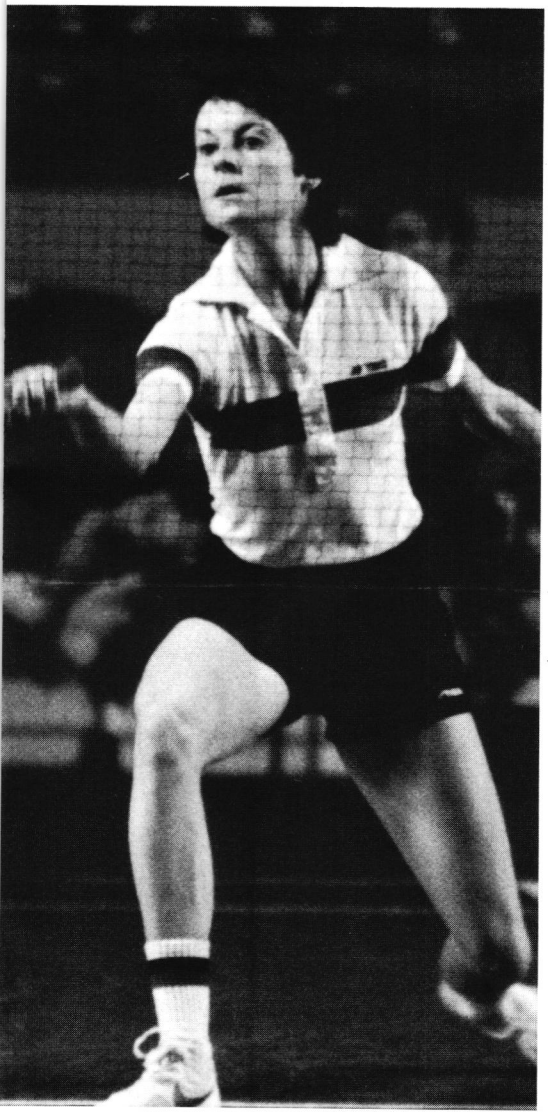




ついに無冠に終った徳田・米倉組

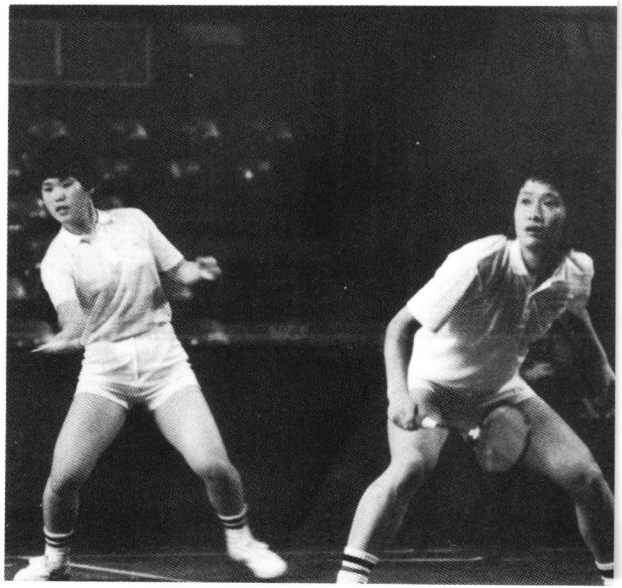


徳田組を破ったギルクス・キルビントン組（イギリス）



デンマークでは黄善愛を降したクラークソン（カナダ）

ユーバー杯ではがん張ってほしい近藤・高田組



ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

760㎡（230坪）の広々とした店内でゆったりショッピング。

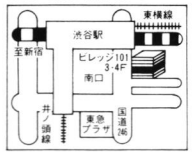


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ビレッジ101ビル3・4階）　TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

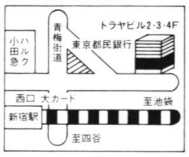


新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2・3・4階）　TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

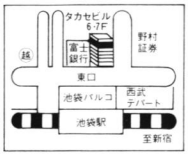


池袋店

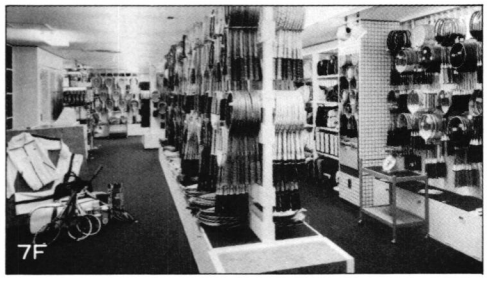
つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階）　TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



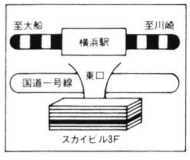


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1　横浜駅東口（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで

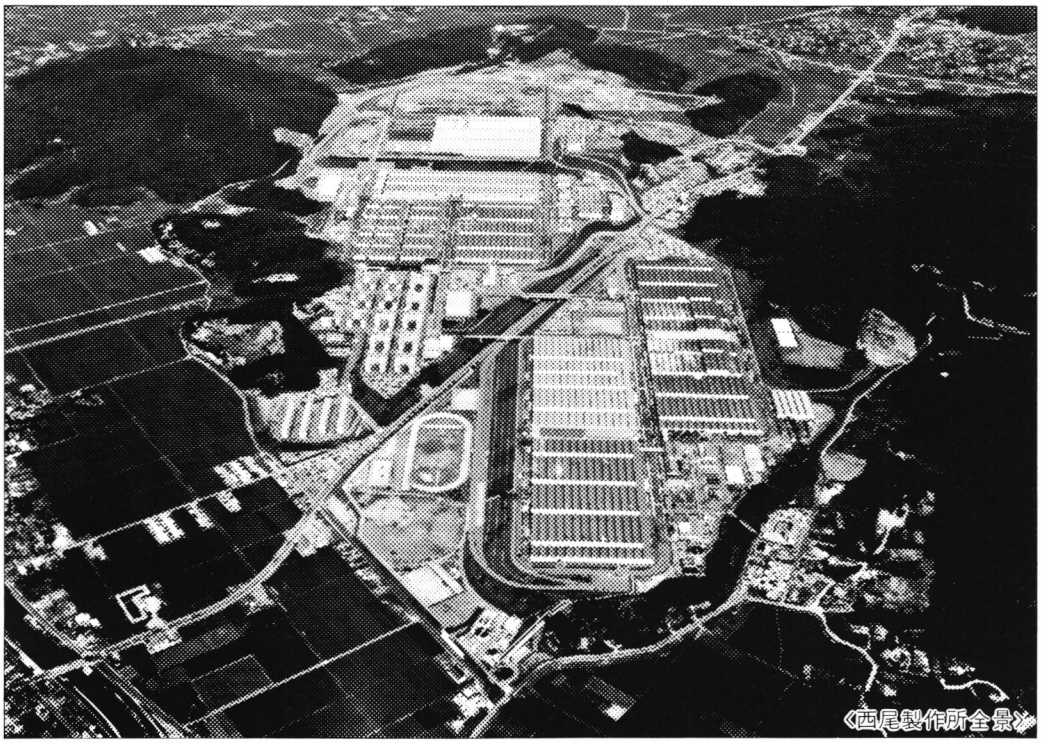


日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

信頼のマーク WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

自動車部品の総合メーカー

長年つみ重ねてきた、エレクトロニクスの技術を駆使して
自動車のエレクトロニクス化――――――
モートロニクスを進めるデンソー!!


〈西尾製作所全景〉

《営業品目》

●スターター	●ディストリビューター	●各種電子制御装置	●燃料噴射ポンプ
●オルタネーター	●マグネトー	●排気ガス浄化装置	●各種メーター
●ダイナモ	●ホーン	●カーエアコン	●ラジエーター
●レギュレーター	●ワイパー	●カークーラー	●スパークプラグ
●イグニッションコイル	●ウインドウォッシャー	●カーヒーター	●フィルター

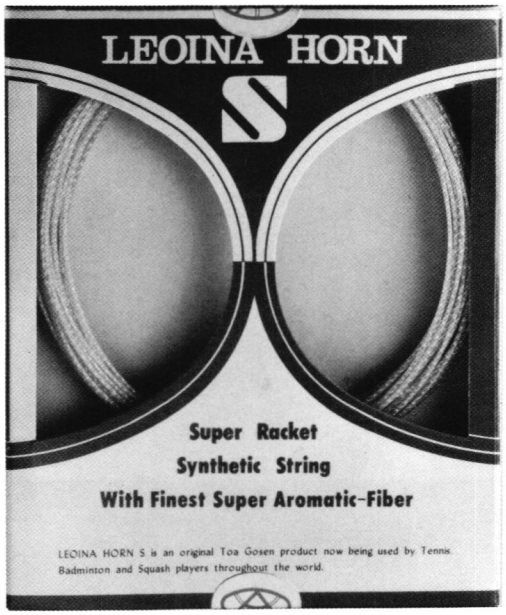
日本電装株式会社

本社／愛知県刈谷市昭和町1－1　（〒448）　TEL 刈谷(0566)22－3311

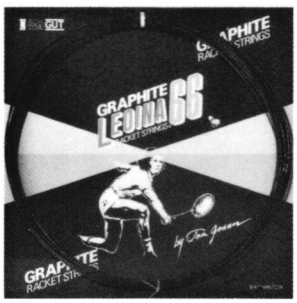


RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991(代)



さすがイギリスの伝統を発揮してトレジュウト・ペリー組は無敵



イメルダに衰えが見えクリスチャンもカバーしきれず



DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki
カワサキラケット株式会社



ウヌッ！ついにここまで来たか。と噂しきりのラケット登場です。今やラケットならカーボン。カーボンならヨネックスといわれるなかでまたまたヨネックスの進歩。フレームまでカーボンと合金の複合化を成功させてしまったのです。結果、安定性・方向性・弾性をぐっとグレードアップさせ、ストロークにしぶとさを吹き込みました。そのうえ、カーボンシャフトの威力をいかんなく引き出し、鋭く重いスマッシュを実現。さあ、あなたのプレイが変わるぞ。

YONEX®